

## 授業シラバス

科目名 (英)	【外国語 I】 英会話 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	English conversation	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	プライダル総合科				2	曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
2000-2004年は大手食品卸商社にて秘書を務め、退職後、英語教育業界に転身。2012年より記憶を入口に自己肯定力を引き延ばし、自信を育む脳の使い方を学ぶプログラムの講師として活動を開始。「記憶×異文化コミュニケーション脳力」を軸に、企業・学校・個人向けのプログラムを提供する。							
【授業の学習内容】							
英語だけでなく、コミュニケーションの意味を理解しながら、出会った人々と幸せな関係を作っていくためのセルフコミュニケーション脳力と異文化コミュニケーション脳力を身につける。自分の強み(関心)を理解し、それを日本語だけでなく簡単な英語でも表現できるようにする。							
【到達目標】							
自分にとってのコミュニケーションの役割を明確にし、自分にもやればできる力がたくさんあることを発見する。英語の発音を理解し、自信を持って音を発せられるようになる。自分自身を理解し、簡単な英語で表現することができるようになる。							
回数	日にち	授業計画・内容					
1回目		(オリエンテーション) 事業の進め方・成績評価方法の説明・コミュニケーションの本質・自分のゴールのイメージ設定ができるようになる。					
2回目		(英語の全体像をつかむ) 音の理解・全体像・記憶できる自分発見ができるようになる。					
3回目		小テスト・フォニックス・自分の表現ができるようになる。(1)「Be動詞+名詞」					
4回目		小テスト・フォニックス・自分の表現ができるようになる。(2)「Be動詞+形容詞」					
5回目		小テスト・フォニックス・好きなことを表現できるようになる。(1)「like + 名詞」					
6回目		小テスト・フォニックス・好きなことを表現できるようになる。(2)「like + to 動詞」					
7回目		小テスト・フォニックス・やりたいこと表現できるようになる。(1)「want + 名詞」					
8回目		小テスト・フォニックス・やりたいこと表現できるようになる。(2)「want + to 動詞」					
9回目		小テスト・フォニックス・お願いができるようになる。「Please/can you -?/will you-? /could you-?/would you-?/would you mind -ing?」					
10回目		小テスト・フォニックス・誘うことができるようになる。「Let's-/shall we-?/ why don't you -?」					
11回目		小テスト・フォニックス・お客様を喜ばすことができるようになる。(質問をする)・最終発表グループワーク準備(1)					
12回目		小テスト・フォニックス・お客様を喜ばすことができるようになる。(望むことを考える)・最終発表グループワーク準備(2)					
13回目		小テスト・フォニックス・お客様を喜ばすことができるようになる。(安心と信頼を与える)・最終発表グループワーク準備(3)					
14回目		(復習テスト)3-13回で学んだ表現の復習テスト					
15回目		グループロープレ発表会					
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。					
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組みへの積極的参加)10% + 技術評価(小テスト・復習テストの評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・毎回の授業での小テストの点数と筆記試験点数とする					
受講生へのメッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							
筆記用具・ノート・スマホなどのデバイス(英単語や表現を調べたりするときに使います)							

## 授業シラバス

科目名 (英)	【コミュニケーション】 コアマネジメント・ベーシック I  Core Management Basic I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	ブライダル総合科	授業 形態	講義演習	時間数 (単位)	60  2	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
ブライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。							
【授業の学習内容】							
行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとても有効なスキルとなり得る。この授業を通して、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。							
【到達目標】							
<p>&lt;コアマネジメント&gt;心理学的な脳の仕組みを理解し、自分と他人とのコミュニケーションを円滑にする手段として、実生活で使えるようになる。</p> <p>&lt;気質学&gt;生まれ持っている人間の4つのエネルギーについて理解し、自分のエネルギーバランスから行動や考え方の特性を知り、「自分らしさ」を理解することができる。</p> <p>&lt;特別授業&gt;学生から新入社員(社会人)として成果、結果をだしやすい、企業が求める人材のコンピテンシーである能力、知識、コミュニケーション技術に渡って、意識してそれを必要時に選択でき、効果的に発信できるようになる。</p>							
回数	日にち	授業計画・内容					
1回目		(オリエンテーション)授業内容を説明し、学ぶ意義を理解することができる					
2回目		(気質学基礎知識②)4つのエネルギーの特性を学び、それぞれの行動形態を理解することができる					
3回目		(気質学基礎知識④)4つのエネルギーの特徴を理解し、見分け方ができる					
4回目		(特別講義①)～オリエンテーション-何を学ぶのか、どのように効果的に学ぶのか～ 企業や現在の社会ニーズとしてオンライン(テレワーク)を導入されている企業も多く、オンラインとリアルとの融合をテーマにオンラインにて効果的に学習をすすめる為の方法について理解し、オンラインに対応できるようになる。皆さまとのラポール(心理的安全性)を創り出し、強いチームになる素地を築き上げます					
5回目		気質学基礎知識①～⑥までの授業内容の理解度の確認と復習					
6回目		(気質学基礎知識⑧)4つのエネルギーのクレーム対応を理解し、実生活で活用できるようになる(2)					
7回目		(特別講義②)～イントロダクション-なぜ学ぶのか、何を学ぶのか～ 企業人事に求められる人材になる為に必要なことを理解する質の高いコミュニケーション、場創りメソッドを理解することができるようになる					
8回目		(基礎知識の応用③)実生活での事例から、4つの気質の行動形態を理解することができる(3)					
9回目		気質学基礎知識 理解度の確認と復習(1)					
10回目		(基礎知識①)心理学的な脳の仕組みを知って、その働きを理解することができる(1)					
11回目		(特別講義③)～主体性を作り出す～ 圧倒的な成果を創り出す為の「場創り」(意識・質の高いコミュニケーションを使えるようになる)を再現性高く生み出す知識・技術力が身につく、成果を出しやすい自分自身の習慣を理解することができるようになる					
12回目		(基礎知識④)信頼関係を築くスキルを学び、理解することができる					
13回目		(特別講義④)～ゴールイメージを思い描く～ チームが丸となる 理念浸透の構造理解と圧倒的Vision構築ができるようになる					
14回目		(基礎知識⑦)五感を通して物事を記憶し、発信する仕組みを理解することができる(2)					
15回目		授業内容の理解度確認と復習(1)					
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・テスト演習50% 制作課題の提出率および完成度50%						
受講生へのメッセージ	コアマネジメントを学ぶことで、どうしてこのような行動をするのか、どうしてこのような感情になるのか、自分のことや相手のことがわかるようになり、コミュニケーションがしやすくなります。社会に出ると様々な年代、様々なタイプの人と関わることになり、コミュニケーションスキルの習得はとても重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】							
・コアマネジメントベーシック/一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構 禁断の気質学							

## 授業シラバス

科目名 (英)	【コミュニケーション】 フォートロジー気質学 I  Fortology I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	ブライダル総合科	授業 形態	講義演習	時間数 (単位)	60  2	開講区分  曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
ブライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートロジー®」の著者。							
【授業の学習内容】							
行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとっても有効なスキルとなり得る。この授業を通して、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。							
【到達目標】							
<コアマネジメント>心理学的な脳の仕組みを理解し、自分と他人とのコミュニケーションを円滑にする手段として、実生活で使えるようになる。 <気質学>生まれ持っている人間の4つのエネルギーについて理解し、自分のエネルギーバランスから行動や考え方の特性を知り、「自分らしさ」を理解することができる。							
回数	日にち	授業計画・内容					
1回目		(基礎知識①) 自分のエネルギー配分を知って、自分の特性を理解することができる					
2回目		(基礎知識③) 2つに分類される行動形態を学び、共通した特性を理解することができる					
3回目		(基礎知識⑤) 接客における4つのエネルギーの相性を理解し、実生活で活用できるようになる(1)					
4回目		(基礎知識⑥) 接客における4つのエネルギーの相性を理解し、実生活で活用できるようになる(2)					
5回目		(基礎知識⑦) 4つのエネルギーのクレーム対応を理解し、実生活で活用できるようになる(1)					
6回目		(基礎知識の応用①) 実生活での事例から、4つの気質の行動形態を理解することができる(1)					
7回目		(基礎知識の応用②) 実生活での事例から、4つの気質の行動形態を理解することができる(2)					
8回目		(基礎知識の応用④) 4つのエネルギーの特徴を理解し、コミュニケーションを円滑することができる					
9回目		気質学基礎知識 理解度の確認と復習(2)					
10回目		(基礎知識②) 心理学的な脳の仕組みを知って、その働きを理解することができる(2)					
11回目		(基礎知識③) コミュニケーションの流れと、自分と相手を観察する方法を理解することができる					
12回目		(基礎知識⑤) 非言語によるコミュニケーションを学び、活用することができる					
13回目		(基礎知識⑥) 五感を通して物事を記憶し、発信する仕組みを理解することができる(1)					
14回目		(基礎知識⑧) 目の動きからわかる思考パターンを理解することができる					
15回目		授業内容の理解度確認と復習(2)					
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・テスト演習50% 制作課題の提出率および完成度50%						
受講生へのメッセージ	コアマネジメントを学ぶことで、どうしてこのような行動をするのか、どうしてこのような感情になるのか、自分のことや相手のことがわかるようになり、コミュニケーションがしやすくなります。社会に出ると様々な年代、様々なタイプの人と関わることになり、コミュニケーションスキルの習得はとても重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】							
・コアマネジメントベーシック／一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構 ・禁断の気質学							

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ホスピタリティヒューマンスキル】 キャリアプログラムⅠ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Career Program Ⅰ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科名	プライダル総合科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
【授業の学習内容】							
ヒューマンスキルの一つである、コミュニケーション能力をゲームなどを通して体感して、学習する。							
【到達目標】							
人間関係に必要なコミュニケーション能力を習得することができる。							

授業計画・内容	
1回目	時間管理と挨拶・掃除&プロの職業人を目指すにあたっての理解を深めることができる。
2回目	自己紹介：名前・出身地・趣味【はまっていること】 自己開示のきっかけづくりをすることができる。
3回目	サポートアンケートと、「夢を叶えるには」について、理解を深めることができる。
4回目	コミュニケーションの基本を学び、説明ができるようになる。
5回目	接客基礎の重要な点を説明ができ、実践できる。
6回目	敬語の重要性を学び、敬語の種類を理解することができる。
7回目	「あ行トーク」で、相手を理解しようとする意欲を養い、最初から簡単に諦めないことの大切さを理解することができる。
8回目	「サイレントトーク」で、頭で理解するのではなく、感覚的に分かろうとする気持ちを養うことができる。
9回目	「伝達トレーニング」で、話し言葉だけでメッセージを正確に共有するための条件を理解して、実践できる。
10回目	「ジェスチャーコミュニケーション」で、メッセージの送り手と受け手に必要な気持ちを理解して、実践できる。
11回目	「相槌・繰り返し・傾聴の技法」で、どのように反応を示せば、聴く側の熱意を効果的に伝えることができるのかを学習します。
12回目	「要約の技法」で、自身が話を理解できているかの確認と、要約して返すことによって、問題を整理してあげることができることを学び、実践できる。
13回目	「共感の技法」で、相手の気持ちを、その種類と程度まで正確に把握し、それを自然な言葉で表現して相手に返すことができるようになる。
14回目	「協力ゲーム」で、チームで仕事するときの協力の重要性を知り、自分が完成してもチームのメンバー全員が完成しないと課題が達成できないことを体験して、共通の目標に向かっていかに行動するかを学び、理解できる。
15回目	前期の振り返りと後期に向けて 後期への新たな目標を立てることができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40%を評価基準とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「レポート提出率」とする。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ホスピタリティヒューマンスキル】 キャリアプログラムⅡ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Career Program Ⅱ						
学科名	プライダル総合科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
【授業の学習内容】							
ヒューマンスキルの一つである、コミュニケーション能力をゲームなどを通して体感して、学習する。							
【到達目標】							
人間関係に必要なコミュニケーション能力を習得							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション授業理解を深めることができる
2回目	自由連想ゲーム：自己の公開とコミュニケーションの円滑な進め方を考えることができる
3回目	性格フィードバック：「自分から見た自分」を理解し、「周りから見た自分」を知ることが出来る
4回目	守護霊プレイ：自己開示することができ、相互理解を深めることができる
5回目	ブレインストーミングとポジティブフィードバック：ブレインストーミングで、性格フィードバックで学んだ、NP(養育的な親心)とFO(自由な子供心)を体感でき、ポジティブフィードバックで肯定的側面を見る必要性を感じ、実践することができる
6回目	内観レポート：身近な人への感謝の気持ちを育てることができる
7回目	ブラインドウォーク：指示の出し方を改善して、問題解決できる方法を学ぶ
8回目	ティーチングとコーチング：フォロワー関心・願望を把握して、効果的に助言する方法を体験学習し、ティーチングとコーチングの効果的な方法を学ぶ
9回目	栄養学教室：どのように話し合えば、正しい人の意見を活かすことができるのかを体験学習する
10回目	ブラインドワーク：危機対処時のリーダーとフォロワーの関係を学ぶ
11回目	価値交流学習：類似性の要因を数量化して把握でき、相互理解と受容を体験学習する
12回目	アサーション：自分と相手を大切に表現技法を学ぶ
13回目	提案力を鍛える：提案力を養うために必要な技法を学ぶ
14回目	評価される人になるには：他社の目線に立つことで、自身を客観的に自己判断できる方法を学ぶ
15回目	1年間の振り返り
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「レポート提出率」とする。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ビジネス】 ビジネスコンピューティング I  Business Computing I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	プライダル総合科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
航空会社に入社、その後外資系ホテル会社にて秘書業務、学校法人にて秘書科担当教諭として秘書実務・情報処理関連の授業を担当。現在はフリーランスにて、社会人、大学、専門学校にて、情報処理科目講座を担当している。							
【授業の学習内容】							
情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー(情報を活用できる能力)を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。							
【到達目標】							
職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		インターネットガイダンス(ITリテラシーの概要・理解度テスト・COMメールの使用方法)
2回目		Word① 入力練習・Word基礎(文字入力)・ビジネス文書作成・文書編集①
3回目		Word② 入力練習・文書作成・編集② (効率的な編集方法を知り、手早く文書作成が出来るようになる)
4回目		Word③ 入力練習・表の作成① (表を作成することにより、文書の可視化が出来るようになる)
5回目		Word④ 入力練習・印刷・図形(地図) (ペーパーロスのない印刷方法や図形描写に慣れる)
6回目		Word⑤ 入力練習・便利な機能 (検索、置換機能などを知り、効率的な文書編集が出来るようになる)
7回目		Word⑥ 入力練習・ビジュアルな文書作成 (ワードアートや画像の利用により可視化された文書を作れるようになる)
8回目		Word⑦ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
9回目		Word⑧ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
10回目		Word⑨ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
11回目		Word⑩ 入力練習・演習問題 (演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる)
12回目		PowerPoint① PowerPointの基本(プレゼンテーションを知る。画面構成)
13回目		PowerPoint② 図形やイラスト・画像の挿入(著作権について知り、コンプライアンスを学ぶ)
14回目		試験週 実技試験(入力テスト/Wordの文書作成)
15回目		振り返り・PowerPoint③ 表やグラフの利用(プレゼンテーション可視化の必要性について知り、見栄えの良いスライドを作れるようになる)

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 実技試験80% ・前期提出物 20%
受講生へのメッセージ	現代社会においてWordやExcel、PowerPointが使えない(苦手)という事は、言えない時代になっています。社会人になってからでは遅いのです。授業を通して、苦手意識を無くし、もっとも得意な分野になってもらえるように一緒に取り組んで参りましょう。

【使用教科書・教材・参考書】	
30時間でマスターWord&Excel2010	

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ビジネス】 ビジネスコンピューティングⅡ  Business computingⅡ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科	プライダグ総合科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30  2	開講区分  曜日/時限
【担当教員・実務者経験】						
航空会社に入社、その後外資系ホテル会社にて秘書業務、学校法人にて秘書科担当教諭として秘書実務・情報処理関連の授業を担当。現在はフリーランスにて、社会人、大学、専門学校にて、情報処理科目講座を担当している。						
【授業の学習内容】						
情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー(情報を活用できる能力)を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。						
【到達目標】						
職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。						

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		PowerPoint④ 課題発表と準備(課題作成にあたり、デザインシートの作成やデータ収集が出来るようになる)
2回目		PowerPoint⑤ 課題作成と発表準備(効率よく課題作成や発表準備に取り組むことが出来るようになる)
3回目		PowerPoint⑥ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する(発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
4回目		PowerPoint⑦ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する(発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
5回目		PowerPoint⑧ 発表(プレゼンテーションの実際)作成課題の発表、発表者以外は、評価シートを作成する(発表を体験することにより、スライドの完成度だけでなく、態度、言葉遣い、表情、視線などにも配慮することが出来るようになる)
6回目		Excel① 基本操作・データ入力・表の作成編集 (Excelの基本操作を知り、効率的な表編集が出来るようになる)
7回目		Excel② 数式と関数Ⅰ (Excelの数式や関数を扱えるようになり、業務で応用出来るようになる)
8回目		Excel③ 表の編集・条件付き書式 (見栄えの良い表作成と条件付き書式を使えるようになり、効率の良い業務に応用出来るようになる)
9回目		Excel④ グラフ作成・練習問題実施 (用途に合わせて、グラフを作成出来るようになる。また、練習問題を実施し、実力養成を図る)
10回目		Excel⑤ 印刷方法、シート操作、関数Ⅱ (印刷方法、シート間の入力方法、関数Ⅱを実施し、業務での応用が出来るようになる)
11回目		Excel⑥ 演習問題実施 (演習問題を実施することにより、ビジネス場面でのExcel利用が出来るようになる)
12回目		Excel⑦ データベース機能 (データベース機能を学ぶ事により、ビジネス場面でのExcel利用が出来るようになる)
13回目		試験週 実技試験(表作成・関数・グラフ・データベース機能を使用したもの)
14回目		振り返り 試験を振り返る事により、理解出来ていなかった点などを、クリアにする事により、スキルを高めよりExcelを利用出来るようになる。
15回目		Excel⑧ 総合演習 (Excelの機能を利用して、演習問題に取り組む事により、ビジネス場面での応用が出来るようになる)
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価60% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・後期試験 実技試験80% ・後期提出物 20%
受講生へのメッセージ		現代社会においてWordやExcel、PowerPointが使えない(苦手)という事は、言えない時代になっています。社会人になってからでは遅いのです。授業を通して、苦手意識を無くし、もっとも得意な分野になってもらえるように一緒に取り組んで参りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】		
30時間でマスターWord&Excel2010 30時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2010		

## 授業シラバス

科目名 (英)	【サービススキル】 ウォーキング I	必修 選択	必須	年次	1	担当教員
	Walking & Posture I	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30	開講区分
学科	ブライダル総合科				2	曜日/時限
<b>【担当教員 実務者経験】</b>						
<p>大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃から脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことにより脚が改善される。一般社団法人Csにてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業様で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。</p>						
<b>【授業の学習内容】</b>						
<p>「正しい姿勢・正しい歩き方」「立ち居振る舞い・所作」を学ぶ。外面と整えることは相手に対する思い遣りの気持ちを表すことであり、また見えない自分自身の心を整えるためでもあることを理解する。信頼感の与えられる人材を育てる。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>人前にて実際に自信を持って立ち居振る舞いが行えるよう、身だしなみを完璧に整えることができるようになる。身だしなみの中には「姿勢や歩き方・所作・表情」まで含まれることを理解しながら、360度どの角度から見られても印象の良い綺麗な立ち居振る舞いができるようになる。</p>						
回数	日にち	授業計画・内容				
1回目		講師自己紹介。学生自己紹介。なぜ「正しく立つ・歩く」「立ち居振る舞い」が大切かを「心×形の法則」と共に学び理解できるようになる。。BEFORE写真として普段の姿勢を撮影。				
2回目		正しい靴の履き方・脱ぎ方・姿勢作りのポイントを理解できるようになる。ウォーキングの前に動的ストレッチを行い、歩行に必要な筋肉の使い方を理解できるようになる。				
3回目						
4回目		姿勢・靴の履き方・脱ぎ方の復習。ウォーキングレッスンは下半身のポイント(着地方法・歩幅・つま先の角度・足首の曲げ伸ばし、膝・ふくらはぎの筋肉の使い方・骨盤の角度・位置・大殿筋意識するなど)を1つずつ丁寧に練習しながら、頭と身体で理解できるようになる。前半の回数までは筋肉強化レッスンをを行うことで筋肉をより意識できるようになる。				
5回目						
6回目		動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングレッスンは下半身の意識するポイントから上半身の意識するポイント(腹筋の使い方・腕の正しい振り方・首の立て方・目線の置く位置)などをつけて、トータル的に正しく美しい歩行ができるようになる。筋肉強化ウォーキングから通常ウォーキングへレベルアップをはかりできるようになる。				
7回目						
8回目		途中経過として姿勢写真撮影を行い、折り返し時点での成長具合を確認。動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。				
9回目						
10回目		動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。				
11回目						
12回目						
13回目		夏季休暇明け、試験日対策として総復習を行い、苦手な点を再度練習できるようになる。				
14回目		前期試験日				
15回目		フィードバックを行い、試験でできていた点、できていなかった点を振り返る。姿勢のAFTER写真撮影をし、綺麗に作られるようになったか確認する。そして前期の総復習ならびに前期終えての感想、反省点など後期の目標を改めて落とし込み後期への意識を高めることができるようになる。				
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。				
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・入退出時の挨拶・お辞儀が行えているかどうか プラスα ・姿勢作り・ウォーキングのポイントを意識して正しくできているかどうか 50%(筆記試験50%)				
受講生へのメッセージ		ウォーキングを習うと聞くと、モデルさんや舞台上に立つ人だったり何か特別な人が習うものと感じていると思いますが、人間はみな二足歩行です。特別な人だけでなく「正しく立つ・歩く」知識や技術は皆さんも知る必要があります。私自身がそうだったように無意識にとっているその姿勢や歩き方が実はマイナスな印象にうつっていたり、身体の不調を引き起こす原因になっている可能性もあります。人前に立った際に、またどんなシーンにおいても好感の持てる人になるよう身につけていきましょう。				
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b>						
教科書は適時、配布 持ち物: スニーカー(紐靴)・動きやすい服装・飲み物						

## 授業シラバス

科目名 (英)	【サービスキル】 ウォーキングⅡ  Walking & Posture Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	ブライダル総合科	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
大学卒業後、株式会社りそな銀行へ入行。この頃から脚や身体の不調に悩まされる。無意識にしていた自己流の正しいと思う姿勢や歩き方が原因と知り、一般社団法人Cs <sup>®</sup> でウォーキング講師の資格を取得。その後独立。身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝え企業研修なども行う。現在教室を軸にラジオ出演、イベント、セミナー等幅広く活躍中。							
【授業の学習内容】							
フラットウォーキングを行いつつ、ヒールウォーキングを身につける。 また様々なシーンにおいて美しくふるまうコツを具体的に練習していく。 外面を整えることは相手に対する思いやりの気持ちを持つことであり、おもてなしの心を形を形でするためにあることを理解し、社会人マナーとして身につける。 信頼感の与えられる人材を育てる。							
【到達目標】							
就職活動や冠婚葬祭のシーンにおいて必要不可欠なヒールウォーキングを美しく正しくできるようになる。日常生活での美しい所作も学び、ものを大切に扱う心も育てられるようになる。 姿勢・フラットウォーキング・ヒールウォーキング・所作トータルでできるようになり、即戦力のある立ち居振る舞いを身につけられるようになる。							
回数	日にち	授業計画・内容					
1回目		男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。(就職活動に活かせるよう実践を交える)手しぐさの法則は女子学生のみ。ものの丁寧な扱い方(カバンを持ち方・傘の持ち方など)を仕事一つで表現できるようになる。					
2回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンはコミュニケーションに欠かせない「素敵な笑顔の作り方」をできるようになる。笑顔のもたらす効果・笑顔の種類・顔の主な筋肉の説明・表情筋トレーニングを行いできるようにする。(手鏡ご持参ください。)					
3回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンではヒールでのスマートな階段の昇り降りのポイントやコツ、並びにエレガントに魅せるしやがみ方等できるようになる。					
4回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 疲れにくいヒール選び(試着のポイント・デザイン選び)並びにシーン別(仕事・パーティー、カジュアル等)脚が綺麗に見えるヒールの高さ選びの数式を学ぶことができるようになる。					
5回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンはスマートにコートやジャケットを脱ぎ着できるようになる。(企業訪問した際に恥ずかしくないマナーを理解してできるようになる。)					
6回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。					
7回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。					
8回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。					
9回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。					
10回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。					
11回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。					
12回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。					
13回目		試験日					
14回目		フィールドバック。					
15回目		姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは再度復習。女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。					
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。					
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 姿勢・ヒールウォーキング 60点 ジャケットの脱ぎ方たたみ方 40点					
受講生へのメッセージ		就職活動で必要不可欠なヒールウォーキングを行っています。ヒールウォーキングが綺麗にできるようになれば、女性としてワンランク上の振る舞いができ自信のある立ち居振る舞いができるようになります。動的ストレッチも行いつつ「楽しく学ばせよう」を心がけていきます。					
【使用教科書・教材・参考書】							

## 授業シラバス

科目名 (英)	【着付】 着付 I  Kitsuke I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
		授業 形態	演習	時間数 (単位)	30  2	開講区分  曜日/時限
学科	プライダル総合科					
【担当教員 実務者経験】						
You&有きもの着付け学院にて師範科を卒業し着物コンサルタントを取得。海外を含む様々な着物ショーでの着付けを担当し経験を積む。同学院の講師を経て、現在は自身の着付け教室や呉服店、専門学校での指導、ワークショップを開催している。出張着付け・箆笄整理・二部式着物のプロデュースも手掛けている。またイベントプランナーとして、和文化や着物に触れることができるイベントを企画運営している。						
【授業の学習内容】						
日本の民族衣装でもある着物。日本の通過儀礼は着物とゆかりが深く、結婚式でも着物姿の方は多い。本授業では基本である小紋・名古屋帯を使用し、着せ付けの基本を学ぶ。着せ付けの技術だけでなく、着物に関する知識も学び、先人たちの知恵や思い、伝統文化としての着物についても学ぶ。また実践形式での授業で自らメモをとって知識を深める。						
【到達目標】						
着せ付けの基本知識・技術を身に付けること。実践的な場面を想定しての練習を通して、15分着せ付けを目標とする。着付けに関する基礎知識を習得しながら、本授業終了時には、浴衣・小紋・太鼓結びの着せ付けができるようになる。また着付けを通して日本の伝統文化に興味を持つこと、行儀作法や物を大切にすること、美しい立ち居振る舞いへの意識、相手への気遣いができるようになる。						
回数	日にち	授業計画・内容				
1回目		(オリエンテーション)授業概要の説明・着物に関する基礎知識の説明・着付けに必要な小物の説明と準備・片付け方・探寸				
2回目		(浴衣自装)浴衣の着付け・帯の結び方ができるようになる				
3回目		(浴衣自装)浴衣の着付け・帯の結び方ができるようになる(講義)着物の種類が理解できるようになる				
4回目		(着せ付け前の準備～小紋)長襦袢の準備・補正・長襦袢・小紋(腰ひもまで)・着物・長襦袢のたたみ方・小物の片付け方ができるようになる。				
5回目		(小紋着せ付け)準備から小紋までの着せ付けの順番が理解できるようになる				
6回目		(小紋着せ付け)準備から小紋までの着せ付けの順番が理解できるようになる				
7回目		(名古屋帯)一重太鼓の順序を理解できるようになる				
8回目		(小紋・名古屋帯)一重太鼓の順序を理解できるようになる				
9回目		(練習)準備～帯までの一連の流れができるようになる				
10回目		(練習)準備～帯までの一連の流れができるようになる				
11回目		(練習)15分着せ付けができるようになる				
12回目		(練習)15分着せ付けができるようになる(確認テスト)筆記テスト 今までの授業の理解度を確認する				
13回目		(練習)15分着せ付けができるようになる				
14回目		(試験)小紋・一重太鼓の15分着せ付け / 準備 7分 / 片付け 10分				
15回目		(試験のフィードバック)(自装)小紋・一重太鼓の自装を体験する				
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。					
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・確認テスト 20% ・実技 20%					
受講生へのメッセージ	技術を覚え何度も練習をすることが必要になります。出来る限り授業は休まないように毎回出席してください。ペアを組んで授業をすすめていきますので、忘れ物をされますと、相手の方に迷惑がかかりますので、ご注意ください。また動画や写真撮影は禁止です。指摘されたこと・アドバイスなどはすぐにメモをとるようにしてください。					
【使用教科書・教材・参考書】						

## 授業シラバス

科目名 (英)	【着付】 着付Ⅱ  KitsukⅡ	必修 選択	選択	年次	1	担当教員
学科	プライダグ総合科	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30  2	開講区分  曜日/時限
【担当教員 実務者経験】						
You&有きもの着付け学院にて師範科を卒業し着物コンサルタントを取得。海外を含む様々な着物ショーでの着付けを担当し経験を積む。同学院の講師を経て、現在は自身の着付け教室や呉服店、専門学校での指導、ワークショップを開催している。出張着付け・箆笥整理・二部式着物のプロデュースも手掛けている。またイベントプランナーとして、和文化や着物に触れることができるイベントを企画運営している。						
【授業の学習内容】						
日本の民族衣装でもある着物。日本の通過儀礼は着物とゆかりが深く、結婚式でも着物姿の方は多い。本授業では基本である小紋・留袖・名古屋帯・袋帯を使用し、着せ付けの基本から応用までを学ぶ。着せ付けの技術だけでなく、着物に関する知識も学び、先人たちの知恵や思い、伝統文化としての着物についても学ぶ。また実践形式での授業で自らメモをとって知識を深める。						
【到達目標】						
着せ付けの基本知識・技術を身に付けること。実践的な場面を想定しての練習を通して、留袖15分着せ付けを目標とする。着付けに関する基礎知識を習得しながら、本授業終了時には、小紋・留袖、お太鼓の着せ付けができ、結婚式の参列者の着物の知識を理解できるようになる。また着付けを通して日本の伝統文化に興味を持つこと、行儀作法や物を大切にすること、美しい立ち居振る舞いへの意識、相手への気遣いができるようになる。						
回数	日にち	授業計画・内容				
1回目		(オリエンテーション)授業概要の説明・着物に関する基礎知識の説明・着付けに必要な小物の説明と準備・片付け方法・長襦袢裁縫・補正・長襦袢				
2回目		(留袖)留袖の着せ付けができるようになる (講義)留袖とはどのような着物かを理解できるようになる				
3回目		(留袖)留袖の着せ付けができるようになる (講義)留袖とはどのような着物かを理解できるようになる				
4回目		(留袖・袋帯)留袖の着せ付け・二重太鼓の順序を理解できるようになる				
5回目		(留袖・袋帯)留袖の着せ付け・二重太鼓の順序を理解できるようになる				
6回目		(留袖・袋帯)準備～帯までの一連の流れができるようになる				
7回目		(留袖・袋帯)準備～帯までの一連の流れができるようになる				
8回目		(留袖・袋帯)準備～帯までの一連の流れができるようになる				
9回目		(留袖・袋帯)復習				
10回目		(練習)留袖15分着せ付けができるようになる (確認テスト)筆記テスト 今までの授業の理解度を確認する				
11回目		(確認テスト)筆記テスト 今までの授業の理解度を確認する				
12回目		(確認テスト)筆記テスト 振り返り				
13回目		(確認テスト)留袖15分着せ付け 振り返り				
14回目		(試験)留袖15分着せ付け / 準備7分/ 片付け10分				
15回目		(試験のフィードバック)(訪問着)伊達袴の使用・訪問着用の変わり結び(かえで結び)				
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。				
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・確認テスト10% ・実技30%				
受講生へのメッセージ		技術を覚え何度も練習をすることが必要になります。出来る限り授業は休まないように毎回出席してください。ペアを組んで授業をすすめていきますので、忘れ物をされますと、相手の方に迷惑がかかりますので、ご注意ください。また動画や写真撮影は禁止です。指摘されたこと・アドバイスなどはすぐにメモをとるようにしてください。今期の目標は留袖着せ付けです。留袖は着付けを学ぶ上でひとつの区切りとなり、目標のひとつとなるものです。皆さんが着付けた留袖で結婚式に出席できるかどうかが採点の基準となります。ただ着付けるだけでなく美しい着付けを目指してください。				
【使用教科書・教材・参考書】						

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ホスピタリティマナー】 ブライダル接遇 I  Bridal Manners I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	ブライダル総合科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							
株式会社ロイヤルホテルに入社。総支配人付アシスタントマネジャー、ゲストリレーションズ・ブライダル部プランナーとして勤務ののち、現在は、研修講師として活躍。新入社員研修や接遇研修など担当し、「食べ方のマナー」の書籍も監修。産業カウンセラー・サービス接遇検定1級・ビジネス実務マナー検定1級・メンタルヘルスマネジメントⅡ種保有。							
【授業の学習内容】							
ブライダルの現場は、どのサービス業よりも感じの良い、心からの接遇が求められる。第一印象、身だしなみ、立ち居振る舞い、言葉遣い、会話など、信頼され、自信をもって活躍できる社会人としての接遇スキルを学び、演習を通して「わかる」だけでなく「できる」に落とし込み、習慣化する。コミュニケーションスキルアップ検定対策も実施する。							
【到達目標】							
どのようなブライダル業界人が求められているのか、高いレベルでのイメージを共有し、接遇の基礎から演習を通して自然に、日常生活でも行動できるようになる。「やっているつもり」「できているつもり」ではなく、周りから「できている」と評価されるレベルに到達し、インターンシップや就職活動でも発揮できるようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		コミュニケーション、マナーの意味を知り、ブライダル業界で必要とされる人物像について体験的に理解する。
2回目		基本的対話スキル① 信頼される1対1のコミュニケーションの取り方がりかいかでき、実践できるようになる。話す・聴くの基本を学び、実践できるようになる。
3回目		基本的対話スキル② グループで会話するときの、プレゼンテーションスキルを学び、実践できるようになる。
4回目		自己表現スキル① 基本的な社会的マナーを学び、実践できるようになる。
5回目		自己表現スキル② 仕事を上する上で必要な「報道相」「交渉」などの表現、技術を学び、実践できるようになる。
6回目		社会的スキル① 電話対応① ビジネスに必要な電話対応の基本を学び、実践できるようになる。
7回目		社会的スキル② 電話対応② ビジネスに必要な電話対応の応用、伝言メモなどを学び、実践できるようになる。
8回目		社会的スキル③ 文書・メールなどの公的文書の存在を理解できる。
9回目		社会的スキル④ アポイントのとり方や公的な訪問マナーが理解でき、実践できるようになる。
10回目		食事のマナー 社会人として恥ずかしくない食事のマナーを理解でき、自信をもって振る舞えるようになる。
11回目		実技演習① 試験に向けて、就職活動の面接の場面を模し、入退室の方法や流れなどを学び、実践する。
12回目		コミュニケーションスキルアップ検定対策。
13回目		実技演習② 試験に向けて、就職活動の面接を模して、接遇マナースキルの確認をし、自然に振る舞えるようになる。
14回目		試験実施
15回目		実技試験振り返り。初回からの成長を振り返るとともに、自分の今後の課題もまとめ、目標をもって行動できるようになる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は、ロールプレイング実技試験での完成度とする。
受講生へのメッセージ	ブライダル業界で通用する「マナー」を身につけていると、社会人として、ビジネスでもプライベートでも、信頼されます。「マナー」と聞くと、堅苦しいイメージがあるかもしれませんが、今後の人生が、より豊かで、より幸せにスムーズに周り人とコミュニケーションを取れる最強アイテムです。知らなくて恥ずかしい思いをしなくて済むように、基礎からしっかりと、正しいマナーを身につけ、実践し、より「洗練された人」になりましょう。

【使用教科書・教材・参考書】
講師作成プリント・コミュニケーションスキルアップ検定テキスト

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ホスピタリティマナー】 就職対策  Employment Support	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科	プライダル総合科	授業 形態	講義演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分	曜日/日限
【担当教員 実務者経験】							
・航空会社にて客室乗務員として30年間勤務後、NLPを勉強しマスタープラクティショナーの資格を習得。大手エアラインスクールの講師、大学の非常勤講師になり、企業や官公庁でビジネスマナーや接客マナー講師の実績多数。 ・老舗ホテルにて勤務後、講師として大学、短大、専門学校、企業などでの研修実績多数。産業カウンセラー、メンタルヘルスマネジメントなどの資格を習得。							
【授業の学習内容】							
・グループワークを実施し、自己分析を深め、伝える力を磨く。 ・実技演習を活用し、本番の緊張感を持って、自己PRを表現力豊かに演習する。 ・グループディスカッション演習も複数回実施し、コミュニケーションスキルを磨く。							
【到達目標】							
・就職活動で提出できる履歴書をワンパターン分、完成させることができる。 ・グループの中でコミュニケーションスキルを発揮し、印象良く協働作業ができる。 ・自分の「強み」を自己分析し、伝える表現方法でアピールすることができる。 ・自分のキャリアについて考察を深め、どんな企業に就職したいか具体的にイメージし、行動できる。							
回数	日にち	授業計画・内容					
1回目		【オリエンテーション】 ・就職とは何かを再確認することができる。 ・自分の就職意識レベルを確認し、何をすべきか明確にすることができる。					
2回目		【履歴書を書く】 ・印象の良い履歴書の書き方のポイントを知ることができる。 ・自己PR、学チカ、志望動機の書き方のポイントを知ることができる。					
3回目		【オリジナルティあふれる自己PRを創ろう】 ・自己PRの内容をグループでさらに深めることができる。 ・印象良く自己PRを伝えるポイントを知ることができる。					
4回目		【得意・努力した科目を見直す】 ・得意・努力した科目について、伝える表現ができていないか確認することができる。 ・印象良く、表現力豊かに伝えることができる。					
5回目		【グループディスカッションを体験する①】 ・グループディスカッションの模擬演習を体験することができる。 ・受付～入室～着席～説明～グループディスカッション～退室の流れを体験し、印象の良い学生はどのような学生か理解することができる。					
6回目		【グループ面接を体験する①】 ・グループ面接の模擬演習を体験することができる。 ・客観的に見学することで、印象の良い学生を理解すること、自分の客観視ができる。					
7回目		【個人面接を体験する①】 ・個人面接の模擬演習を体験することができる。 ・客観的に見学することで、印象の良い学生を理解することができ、自分の印象も客観視できる。					
8回目		【志望動機の書き方のポイントを知る】 ・志望動機は企業さまに対するラブレターであることを理解できる。 ・自分の熱意が伝わりやすい表現力を知ることができる。					
9回目		【履歴書を提出し、迷いたいと思われる履歴書を選ぶ】 ・直筆で書かれた履歴書の内容を見て、実際に迷いたいと感じる履歴書を客観的に選ぶ体験ができる。 ・採用担当者がどのような視点で、履歴書を見ているのかを理解することができる。					
10回目		【エントリーシート形式で自分を豊かに表現する】 ・白紙のA4用紙を用いて、自分を自由に表現した課題を用いて、豊かに伝わりやすく自己表現をすることができる。 ・クラスメイトの表現力を客観視することで、表現力をより磨くことができる。					
11回目		【質問に対する対応力を磨く】 ・想定外の質問に対しても、動じることなく、自分らしく瞬時に考え、返答するスキルを磨くことができる。 ・どうしても答えが思い浮かばない際の臨機応変な対応を知り、実践することができる。					
12回目		【実技試験① グループディスカッション②】					
13回目		【実技試験② グループ面接②】					
14回目		【実技試験③ 個人面接②】					
15回目		【総まとめ】					
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(実技試験+履歴書評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・履歴書 10% ・面接30%(3回×10%)						
受講生へのメッセージ	・「はたらく」ということは、生きていく上でも、非常に重要なことです。知識や経験、技術、資格、人脈など、お給料以外にも得られることは多数あります。自分が、「はたらく」ことで得たい「もの」は何なのかを、深く考え、その実現に向けて、共に進んでいきましょう。一生懸命に考え、「行動」する学生たちに対して、私たちは支援を惜しみません。人生はまだこれからですが、新卒として就職活動ができるのは、今回限りです。後悔のないように、自分の人生を自分の方でクリエイトしていきましょう。 初めてのことで、わからないのは当然のことです。不安なのも迷うのも当然です。今のうちに、たくさん迷ってください。でも、不安だから、まだ決まっていなからといって動かずには、何も始まりません。不安で迷いながらも、情報に対するアンテナは張り巡らせ、今、できることは着実に実行していきましょう。皆さまの納得のいく企業さまとのマッチングと、これからの幸せのために、一緒にがんばっていきましょう！						
【使用教科書・教材・参考書】							
・講師作成プリント ・自己分析シート など							

## 授業シラバス

科目名 (英)	【マーケティング・セールス】 マーケティング I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Marketing I	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダル総合科				2	曜日/時限	
【担当教員_ 実務者経験】							
15年間のゲーム開発（プランナー、ディレクター、プロデューサー）を経て、2018年に研修会社を設立。 <エマージェンス・ジャパン合同会社 代表> <a href="https://emergence-japan.com/">https://emergence-japan.com/</a>							
【授業の学習内容】							
企画立案は、ただ単にアイデアを考えれば良いというものではありません。そこにはいくつかの段階とノウハウがあります。それらの段階とノウハウを身に付け、プランナーとしての基礎能力をつける。							
【到達目標】							
サービス内容や新しいプランなどを的確かつ効率的に組立て、提案できるようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		【オリエンテーション】 企画立案から企画書作成、プレゼンテーションまでの流れと概要を理解する
2回目		【マーケティング①】 課題を構成する要素を分析し、定義を明確にできるようになる
3回目		【マーケティング②】 分解要素をリサーチし、課題を再定義できるようになる
4回目		【マーケティング】 ブライダル業界の動向やトレンドを調査し、ポジショニングできるようになる
5回目		【コンセプト】 ミッションとコアアイデアを立案できるようになる
6回目		【ブレインストーミング①】 コアアイデアを実現する具体策の発案ができるようになる
7回目		【ブレインストーミング②】 コアアイデアを実現する具体策の発案ができるようになる
8回目		【ブレインストーミング③】 コアアイデアを実現する具体策をブラッシュアップできるようになる
9回目		【ブレインストーミング④】 コアアイデアを実現する具体策をブラッシュアップできるようになる <演習実施>
10回目		【企画立案】 アイデアの実現性を検討し、プロジェクトへ昇華できるようになる
11回目		【プレゼン資料の作成】 プレゼン資料の効果的な構成を理解し、土台を作れるようになる
12回目		【プレゼン資料の作成】 効果的なプレゼン資料が作成できるようになる
13回目		【プレゼンテーション】 チームごとにプレゼンテーションの演習①とフィードバック <演習実施>
14回目		【プレゼンテーション】 チームごとにプレゼンテーションの演習②
15回目		【振り返り】 半年間の振り返り

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価（不合格）とする。
評価方法	<b>出席評価</b> 50% + <b>授業態度評価</b> (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + <b>技術評価</b> (もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・演習課題の完成度 100%
受講生へのメッセージ	これから創造力が重要性を増す時代です。 創造力は生まれ持った才能ではなく、知識と技術で向上します。 入社した時点で、戦力になれるよう準備しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】	
パワーポイントのスライド、模造紙、付箋紙、カラーペン	

## 授業シラバス

科目名 (英)	【マーケティング・セールス】 企業研究 I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Corporate project I	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダル総合科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
15年間のゲーム開発(プランナー、ディレクター、プロデューサー)を経て、2018年に研修会社を設立。 <エマージェンシス・ジャパン合同会社 代表> <a href="https://emergence-japan.com/">https://emergence-japan.com/</a>							
【授業の学習内容】							
披露宴とは何かを理解し、企画の立案から具体化までのプロセスを学ぶことができる。							
【到達目標】							
実際に披露宴の現状を分析(構成、演出、費用等)し問題を理解及びお客様のニーズを深く読取、根拠のもと企画提案を学ぶ。 またチームで企画を考え提案することで、チームマネジメント力及びプレゼンテーション力を養うことができる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		課題に取り組むにあたり、企業(の特徴、考え方をチーム内で情報共有をし、課題に取り組む基礎知識をつけることができる。
2回目		【課題オリエンテーション】 課題オリエンテーション及び見学を行い、チームでまとめていく企画提案に必要な知識を学ぶことができる。
3回目		
4回目		課題内容を分析し(構成要素、何の為にするのか、リストアップ)理解することができる。
5回目		課題に対し、コンセプトを作れるようになる
6回目		課題に対し、発想法を使えるようになる
7回目		課題の考案、アイデアを固めることができる。
8回目		課題の実現性を考察し、アイデアが具体化できるようになる
9回目		プレゼンテーション資料作成し、中間プレゼンテーションで発表できるようになる。
10回目		【中間プレゼンテーション】 校内にて、中間プレゼンテーションを行い、企業側からの審査及び次への課題に取り組むことができる。
11回目		サプライズ案のブラッシュアップを行い、企画内容を固めていく
12回目		企画書まとめパワーポイントを作成し、最終プレゼンテーションで発表が出来るようになる。
13回目		最終プレゼンテーションに向け、最終チェックとリハーサルを行う。
14回目		【最終プレゼンテーション】 企業側から最終の審査をいただき、優秀作品は制作展で発表できる。
15回目		【振り返り】 今回のプロジェクトで学びや気づきを振り返り、集大成とする。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・最終プレゼンテーションの内容、評価
受講生へのメッセージ	今回の企業研究では、ホスピタリティとクリエイティビティが求められます。 この2つの能力は、将来的にも人工知能では代替をすることができない能力だと言われてます。 今回の課題を通してホスピタリティとクリエイティビティを身に着け、入社した時には即戦力を目指し頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダル基礎Ⅰ】 ブライダル基礎Ⅰ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Bridal Manners I	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダル総合科				2	曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
株式会社ロイヤルホテルに入社。総支配人付アシスタントマネジャー、ゲストリレーションズ・ブライダル部プランナーとして勤務ののち、現在は、研修講師として活躍。新入社員研修や接遇研修など担当し、「食べ方のマナー」の書籍も監修。産業カウンセラー・サービス接遇検定1級・ビジネス実務マナー検定1級・メンタルヘルスクアマネジメントⅡ種保有。							
【授業の学習内容】							
ブライダルの幅広い知識の基礎を学びます。時代とともに移り変わる婚礼事情を理解し、多様化する婚スタイルやお客様のご要望に応えられる人材となります。全日本ブライダル協会主催のジュニアライセンス検定(略称:JL検定)合格を目指します。							
【到達目標】							
講義中から、当たり前「感じの良い人」と感じていただける聴講姿勢を保ち、積極的に講義に参加することができる。 ブライダルの知識の基礎を理解し、検定試験に合格できる知識を身につけることができる。 人の話を誠実に聴き、正しく理解し、自分の想いを論理的かつ的確に表現し、印象よく伝えることができる。							
回数	日にち	授業計画・内容					
1回目		ブライダル基礎で学ぶ内容を理解できる。ブライダルの仕事には、どのようなものがあるのか理解できるようになる。					
2回目		接客知識 良い接客を理解し、体現できるようになる。今後のあらゆる「聴く」「話す」「関わる」の中で、その知識を発揮できるようになる。					
3回目		マナー 社会人として必要なマナーを理解し、実践できるようになる。学生から社会人へ移り変わる前に、正しい知識を正しく理解し、「わかる」だけでなく「できる」の習慣にすることができる。					
4回目		ウェディングの種類 ウェディングの種類を理解し、説明できるようになる。専門用語も理解し、覚え、説明できるようになる。					
5回目		ウェディングの歴史・現状とトレンド 古来からの流れを理解し、説明できるようになる。現状を理解し、トレンドを知ることができるようになる。					
6回目		ファッションコーディネート・フォーマルファッション① 基本的なウェディングファッションの特徴と専門用語を理解することができるようになる。					
7回目		ファッションコーディネート・フォーマルファッション② 基本的なウェディングドレスの特徴と専門用語を用いて、ドレスの特徴を感じよく説明することができるようになる。					
8回目		カラーコーディネート 「色」の力を理解することができるようになる。理論的に「色」の世界を理解し、どのような色が自分や周りの人に似合うのか想像することができるようになる。					
9回目		フラワーコーディネート ウェディングにおけるフラワー装飾について理解できるようになる。会場装花、ブーケなどについて理解し、説明できるようになる。					
10回目		和装コーディネート 江戸時代から繋がる和装の婚礼衣装についての知識を理解することができる。専門用語を理解し、説明できるようになる。					
11回目		フォースタイルリング ウェディングを映像に残す際に必要な知識、アテンド方法、より魅力的に写すための知識を理解できるようになる。					
12回目		カップルアテンド 挙式・披露宴当日の新郎、新婦、ご親族さまなどの心情を理解し、的確なサポートを的確なときに、的確に実施するための知識を理解できるようになる。					
13回目		結納、婚約の現状とトレンド 結納の意義やしきたり、婚約について理解し、説明できるようになる。					
14回目		定期試験実施					
15回目		まとめと今後の課題理解 検定に向けて知識の復習と自分の理解不足の部分を理解し、克服するためにどうしたらよいか理解できる。					
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 試験評価40%とする。 なお、この講義の試験内容は、筆記試験の点数とする。						
受講生へのメッセージ	ブライダル業界で活躍することを目指す皆さまにとって、必要不可欠な講義です！幅広いブライダル業界の知識をギュッと詰め込んであります。講義は、実際のアイテムを触ったり、ブライダル雑誌を見たりしながら、感性にも働きかけて、楽しく学び、理解していきます。幅広い知識を学ぶ中で、自分はどういった分野に関わりたいかも見つけていきましょう。そして、検定で資格を取得し、自信を持ってブライダル業界の即戦力となりましょう！						
【使用教科書・教材・参考書】							
ブライダルの基礎知識・ブライダル雑誌・ドレス・衣装・ウェディングアイテム							

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダル基礎Ⅰ】 ブライダル基礎Ⅱ	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	
	Bridal basic II	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダル総合科						2
【担当教員・実務者経験】							
株式会社ロイヤルホテルに入社。総支配人付アシスタントマネジャー、ゲストリレーションズ・ブライダル部プランナーとして勤務ののち、現在は、研修講師として活躍。新入社員研修や接遇研修など担当し、「食べ方のマナー」の書籍も監修。産業カウンセラー・サービス接遇検定1級・ビジネス実務マナー検定1級・メンタルヘルスクアマネジメントⅡ種保有。							
【授業の学習内容】							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・JL検定の合格を目指すことができる。</li> <li>・講義の中でも、実技演習を採り入れ、「知る」→「理解する」→「教えることができる」の流れで、理解の定着をはかる。</li> </ul>							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・JL検定に合格できる知識を学習することができる。</li> <li>・ブライダルの基礎知識を知り、説明できるようになる。</li> </ul>							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		【JL検定対策①】 ・結婚式についての概要を復習し、説明することができる。 ・挙式について理解を深め、説明することができる。
2回目		【JL検定対策②】 ・過去問の結果を参考に、自分の弱点を客観的に把握し、克服することができる。 ・衣装についての知識を復習し、説明することができる。
3回目		【JL検定対策③】 ・過去問の結果を参考に、自分の弱点を客観的に把握し、克服することができる。 ・色についての知識を復習し、説明することができる。
4回目		【JL検定対策④】 ・過去問の結果を参考に、自分の弱点を客観的に把握し、克服することができる。 ・結納についての知識を復習し、説明することができる。
5回目		【JL検定対策⑤】 ・過去問の結果を参考に、自分の弱点を客観的に把握し、克服することができる。 ・マナーについての知識を復習し、説明することができる。
6回目		【JL検定対策⑥】 ・過去問の結果を参考に、自分の弱点を客観的に把握し、克服することができる。 ・フォーマルウェアについての知識を復習し、説明することができる。
7回目		【JL検定対策⑦】 ・過去問の結果を参考に、自分の弱点を客観的に把握し、克服することができる。 ・JL検定で、良く出題されるが、間違いが多いポイントを知り、対策を講じることができる。
8回目		【JL検定対策⑧】 ・過去問の結果を参考に、自分の弱点を客観的に把握し、克服することができる。 ・最近の業界事情について知ることができる。
9回目		【JL検定直前対策】 ・これまでの過去問の結果を振り返り、自分の弱点を把握し、克服することができる。 ・出題範囲を総復習し、満点合格できる力を確認することができる。
10回目		・ブライダルの現場でのトラブルやクレーム、感動のエピソードなどを知ることができる。 ・印象に残ったエピソードと自分だったらどうするかを具体的に考察し、発表することができる。
11回目		【幅広い基礎知識理解①】 ・国家資格の「ブライダルコーディネーター技能検定」テキストを用い、ブライダルの基礎知識をより多角的に確認し、理解を深めることができる。
12回目		【幅広い基礎知識理解②】 ・国家資格の「ブライダルコーディネーター技能検定」テキストを用い、ブライダルの基礎知識をより多角的に確認し、理解を深めることができる。
13回目		【筆記試験】
14回目		【わかりやすく、印象の良い伝え方演習】 ・ロープレ演習によって、お客様に対して、身に付いた専門知識をわかりやすくポイントを抑えて伝える方法を学び、演習することができる。
15回目		【総復習】 ・自分が身に付いたブライダルの基礎知識を確認することができる。ロープレ演習によって、お客様に対して、どれだけわかりやすく、正確に説明できるか確認することができる。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(筆記試験評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・筆記試験90% ・ロープレ演習実技10%
受講生へのメッセージ		ブライダル学科で学ぶみなさんにとって、「ブライダルの基礎知識」は、必ず身に付けて卒業してほしい科目です。学習を通して得た知識は、知らないお客様にわかりやすく伝えることができることで、初めて発揮されます。実際に、ブライダル関連企業に就職しない場合でも、自身や友人の結婚の場面で、アドバイスすることもできるでしょう。また、幅広いブライダル関連業務の中で、自分がより興味を持つのはどの分野なのかも明確にし、さらに、その分野についての深い学習に進めるヒントも得て、より専門的な学習にも結び付けてください。 正しい知識、深い知識を基に、恥ずかしくないプランニングがご提案でき、お客様にも深い理解のもとにご婚礼を挙行していただける知識の基礎を楽しく身につけましょう！
【使用教科書・教材・参考書】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブライダルの基礎知識</li> <li>・講師作成プリント など</li> </ul>		

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダル基礎Ⅰ】 ブライダル基礎Ⅰ  Bridal Basic I	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員
学科	ブライダル総合科	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限
【担当教員、実務者経験】						
神戸・沖繩でのウェディングプランナーを8年経験し約350組の結婚式を担当。その後、専門学校・短期大学においてブライダル業界で活躍できる人材育成に携わっている。						
【授業の学習内容】						
BIA公益社団法人日本ブライダル文化振興協会発行の『ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード』『ブライダル用語辞典』を使用し、ブライダル業界で活躍するうえで必要な基本的知識の修得を図るとともに、国家検定であるブライダルコーディネーター技能検定3級の取得を目指す。						
【到達目標】						
ブライダル業界で活躍するうえで必要な基本的知識を修得し、用語について説明することができるようになる。						

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		1: ガイダンス・ブライダルコーディネーター技能検定についての説明【結婚の定義】について理解する 2: 【日本の結婚状況】・【ブライダル市場】・【ブライダル業界の1年と集客システム】について理解し、説明できるようになる
2回目		1: 【宗教と結婚式】 【結婚に関する風習・いわれ】について理解し、説明できるようになる 2: 【キリスト教式の歴史】について理解し、説明できるようになる
3回目		1・2: 【キリスト教 プロテスタント】の式次第を理解し、説明できるようになる
4回目		1: 【神前式の歴史】について理解し、説明できるようになる 2: 【神前式 式次第】を理解し、説明できるようになる
5回目		1: 【仏前式】歴史と現状・式次第について理解し、説明できるようになる 2: 【人前式】【シビル・マリッジ】について理解し、説明できるようになる
6回目		1・2: 【会場 調査】 関西にあるさまざまな挙式会場を調査し、現状を理解できるようになる
7回目		1・2: 【披露宴のスタイル・進行】について理解し、説明できるようになる
8回目		1: 【海外ウェディング】・【2次会】・【新婚旅行】の現状を理解し、説明できるようになる 2: 【ブライダル関連業種】について理解し、説明できるようになる
9回目		1・2: 【個人ワーク】テーマを設定し、オリジナル挙式・披露宴を提案する
10回目		1: 【ブライダル関連業種】のドレスコーディネーターの業務について理解し、説明できるようになる。 3: 【衣装選定】婚礼衣装について学び、コーディネーターに必要なアイテムを理解できる
11回目		1: 【ブーケ・フラワーアイテム】について学び、テーマに沿ってフラワーコーディネートできるようになる 3: 【会場コーディネート】について学び、テーマに沿って会場コーディネートできるようになる
12回目		1: 【ペーパーアイテム】について学び、それぞれの必要性を説明できるようになる 2: 【料理・ドリンク・ケーキ】について歴史から現状について学び、それぞれの料理の特徴などについて説明できるようになる
13回目		1・2: 【披露宴の基本演出】について学び、トレンドについて調査する
14回目		1・2: 試験
15回目		1・2: 試験の解説および前期授業内容の振り返り
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 授業内で配布される出席カードへの授業の概要の記載内容に重点を置いて評価を行う。また、技術評価は以下の割合にておこなう。 ・課題への取り組み20% ・筆記試験20%
受講生へのメッセージ		予習: 次回の内容について教科書およびワークブックに目を通しておくこと。 隔週の授業冒頭に『ブライダル用語辞典』の小テストを実施します。 復習: 授業内で解説した部分についてワークブックをまとめておくこと。授業内容によってはブライダル情報誌やパンフレットを各自用意する必要があります。
【使用教科書・教材・参考書】		
・ブライダルコーディネーターテキスト スタンダード ・ブライダル用語辞典 ・ブライダル基礎Ⅰ・Ⅱ ワークブック		

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダル基礎Ⅱ】 ブライダル基礎Ⅱ	必修 選択	必修 選択	年次	I	担当教員	
	Bridal Basic Ⅱ	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60	開講区分	
学科	ブライダル総合科				4	曜日/時限	
【担当教員 実務者経歴】							
神戸・沖縄でのウェディングプランナーを8年経験し約350組の結婚式を担当。その後、専門学校・短期大学においてブライダル業界で活躍できる人材育成に携わっている。							
【授業の学習内容】							
BIA公益社団法人日本ブライダル文化振興協会発行の『ブライダルコーディネートテキスト スタンダード』『ブライダル用語辞典』を使用し、ブライダル業界で活躍するうえで必要な基本的知識の修得を図るとともに、国家検定であるブライダルコーディネート技能検定3級の取得を目指す。							
【到達目標】							
ブライダル業界で活躍するうえで必要な基本的知識を修得し、用語について説明することができるようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		1・2:さまざまな挙式スタイル①キリスト教挙式の式次第を理解し、説明できるようになる。
2回目		1・2:企業プロジェクト① オリエンテーション
3回目		1:さまざまな挙式スタイル②神前式の成り立ちを理解し、式次第の流れを説明できるようになる。 2:企業プロジェクト②
4回目		1:さまざまな挙式スタイル③仏前式・人前式・シビルマリッジなどの宗教色のない挙式の欠かせない次第について理解し、説明できるようになる。 2:企業プロジェクト③
5回目		1:披露宴の基礎① 披露宴のスタイルについて理解し、説明できるようになる。 2:企業プロジェクト④
6回目		1:披露宴の基礎② 披露宴の進行を学び、オリジナルの披露宴のプランニングができるようになる。 2:企業プロジェクト⑤
7回目		1:婚礼衣装について① 衣装について由来や現状について理解し、説明できるようになる。 2:企業プロジェクト⑥
8回目		1:婚礼衣装について② 衣装について由来や現状について理解し、説明できるようになる。 2:企業プロジェクト⑦
9回目		1・2:企業プロジェクト⑧ 中間プレゼンテーション
10回目		1:ブーケ フラワーアイテムの選定 ・ヘアメイク、ネイルアート ブライダルアイテムについて理解し、それぞれについて説明できるようになる。 2:企業プロジェクト⑧
11回目		1:会場コーディネート ブライダルアイテムについて理解し、それぞれについて説明できるようになる。 2:企業プロジェクト⑨
12回目		1・2:企業プロジェクト⑩ 最終プレゼンテーション
13回目		1:試験 2:企業プロジェクト⑪ *WE ARE 選出グループは1月30日(木)にリハーサル練習を実施します。
14回目		1:試験 解説 2:企業プロジェクト 振り返り
15回目		1:料理・飲み物について ブライダルアイテムについて理解し、それぞれについて説明できるようになる。 2:海外ウェディングと新婚旅行および、二次会・1.5次会 ブライダルビジネスの特徴を理解し、説明できるようになる。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
------	---

評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・ブライダル用語辞典10% ・筆記試験30%
------	---

受講生へのメッセージ	予習: 次回の内容について教科書およびワークブックに目を通しておくこと。 隔週の授業冒頭に『ブライダル用語辞典』の小テストを実施します。 復習: 授業内で解説した部分についてワークブックをまとめておくこと。
------------	--

【使用教科書・教材・参考書】	・ブライダルコーディネートテキスト スタンダード ・ブライダル用語辞典 ・ブライダル基礎Ⅰ・Ⅱ ワークブック
----------------	--

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルプロデュース】 MCTトレーニング I	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	
	MC Training	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダル総合科				2	曜日/時限	
<b>【担当教員、実務者経験】</b>							
関西一円のホテルやゲストハウス等にて婚礼司会を担当、セレモニーやイベント等の司会も行っている。 CMやナレーション、舞台などでも、声を活かした仕事をこなす。コンテスト対策のスピーチトレーナーも担当した。							
<b>【授業の学習内容】</b>							
腹式呼吸や滑舌、正しいアクセントなどを学び、どのように話せば、人に伝わりやすくなるのかを学習する。 同時に、プランナーとMCのかかわり方やMCの果たす役割を学び、人前式の司会者コメントを考えながら、現場での流れを知り、司会者としての話し方を学習する。							
<b>【到達目標】</b>							
就職活動や、その後の仕事現場で活かせる、「伝わる話し方」「心に届く話し方」の技術を身に付ける。 ブライダルの現場で通用するように、人前式の流れを理解し、簡単な司会ができるようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		【オリエンテーション】 自己紹介(動画撮影) / 印象の良くなる話し方ができるようになる
2回目		腹式呼吸で相手へ届く声の出し方ができるようになる / プランナーとMCのかかわり方を理解できるようになる
3回目		一言一言の発声をしっかりとできるようになる / MCとしての結婚式における重要性を理解できるようになる
4回目		口周りのトレーニングをし、滑舌良く話すことができるようになる / 接客における敬語を話すことができるようになる
5回目		【発声・滑舌テスト(動画撮影)】 正しいアクセントで発声できるようになる / 人前式の流れを知り、理解できるようになる
6回目		強弱をつけて、より伝わりやすい話し方ができるようになる / 新郎新婦入場の司会コメントを考え、話すことができるようになる
7回目		間を意識した話し方で、伝えたいことが伝わる話し方ができるようになる / 開式の司会コメントを考え、話すことができるようになる
8回目		感情を込めて、心まで届く話し方ができるようになる / 誓いの言葉シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
9回目		台本台詞を使って、感情を込めた話し方ができるようになる① / 誓いのキスシーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
10回目		台本台詞を使って、感情を込めた話し方ができるようになる② / 指輪の交換シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
11回目		試験発表用の文章を考える / 結婚誓約書シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
12回目		試験発表のリハーサル / フラワーシャワー退場シーンの司会コメントを考え、話すことができるようになる
13回目		【試験発表(動画撮影)】
14回目		試験発表のフィードバック / グループごとに人前式司会コメントを通して話すことができるようになる
15回目		発声の総復習 / グループごとに人前式司会コメントを通して発表

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・試験発表30% ・発声・滑舌テスト10%
受講生へのメッセージ	一朝一夕には、身に付きません。 少しずつでも、楽しみながら身に付けましょう。
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b>	
レジュメ 筆記用具	

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルプロデュース】 MCトレーニングⅡ	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	
	MC training Ⅱ	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダル総合科				2		曜日/時限

**【担当教員・実務者経験】**

関西一円のホテルやゲストハウス等にて婚礼司会を担当、セレモニーやイベント等の司会も行っている。  
CMやナレーション、舞台などでも、声を活かした仕事をこなす。コンテスト対策のスピーチトレーナーも担当した。

**【授業の学習内容】**

前期にて行ってきた【話し方】基礎をよりブラッシュアップし、伝える力、表現力がさらに良くなるようにトレーニングする。

**【到達目標】**

ブライダル従事者として、様々な視点から新郎新婦へのサポートや提案ができるようになる為に司会者という立場になって、結婚式の進め方、それに伴う演出やコメントを学び、1人何役も担えるようになる

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		人前式と披露宴について・・・司会者目線で進行が組めるようになる
2回目		人前式と披露宴について・・・進行演出のMCコメントが作れるようになる
3回目		人前式と披露宴について・・・進行演出のみMCとして発表できるようになる
4回目		人前式について・・・軸進行の作成ができるようになる
5回目		人前式について・・・軸進行の原稿作成ができるようになる
6回目		表現力をより高める為に物語の朗読ができるようになる
7回目		人前式の流れを理解し、新郎新婦やスタッフの動きを見て司会ができるようになる PART 1
8回目		人前式の流れを理解し、新郎新婦やスタッフの動きを見て司会ができるようになる PART 2
9回目		テスト・・・上記を踏まえ人前式司会の発表
10回目		披露宴について・・・軸進行の原稿作成ができるようになる
11回目		披露宴について・・・演出を入れた進行を作成し組み立てる事ができる
12回目		披露宴について・・・演出を入れた進行の原稿が作成できるようになる
13回目		試験 表現力をより高める為に物語の朗読ができるようになる
14回目		披露宴の流れを理解し、新郎新婦やスタッフの動きを見て司会ができるようになる PART 1
15回目		披露宴の流れを理解し、新郎新婦やスタッフの動きを見て司会ができるようになる PART 2

**評価基準**

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

**評価方法**

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験)40%とする。  
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。

- ・テスト課題30%
- ・課題完成度70%

**受講生へのメッセージ**

授業で培った発声や滑舌をもとに、更に人前で話す事にも慣れ、司会者という職業にも興味を持ってもらえたら嬉しいです

**【使用教科書・教材・参考書】**

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルプロデュース】 ブライダルプランナー I	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
	Bridal Planner I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
学科	ブライダル総合科						
【担当教員、実務者経験】							
1992年～2004年ホテルにてフロント勤務を経て、ブライダル業界へ転職。その後、ゲストハウス・ホテルにて、ブライダルプランナーとして、新規接客・打合せ・当日施行を経験。また、プランナーとしての結婚式に対する考え方やプロ意識を身につけ、実践できる力をつける。							
【授業の学習内容】							
実践で役立つコミュニケーション能力、提案力、問題回避能力について学習し、幅広い提案ができるよう実践的なプランニングを学ぶ。また、プランナーとしての結婚式に対する考え方やプロ意識を身につけ、実践できる力をつける。							
【到達目標】							
基本的なプランナーの知識に加え、お客様のニーズを引き出すコミュニケーション能力、多様な状況に応じた判断力を身につけ、お客様の思いを形にするスキルを身につける。また、結婚式の知識を深め、一組一組に真摯に向き合い、尽力する姿勢や考え方を身につける。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション)ブライダル業界の現状
2回目		(ブライダルの知識)ブライダルのしくみについて理解する
3回目		(プランナーの仕事)プランナーの役割を理解する
4回目		(接客の基本)基本的な接客について理解する
5回目		(新規接客①)新規接客の役割について理解する
6回目		(新規接客②)新規接客の流れを理解する
7回目		(新規接客③)商品を理解する
8回目		(新規接客④)会場の強みを理解し、アピールすることができる
9回目		(新規接客⑤)接客に必要なスキルを理解する
10回目		(新規接客⑥)お客様のニーズを理解する
11回目		(新規接客⑦)お客様のニーズにあわせた提案ができるようになる
12回目		(プランニング①)基本的な打合せスケジュールを理解する
13回目		(プランニング②)実務の知識を理解する
14回目		(テスト)内容について
15回目		(まとめ)復習
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎筆記試験点数と制作課題の提出率及び完成度とする
受講生へのメッセージ		結婚式という非日常的で華やかな舞台裏を支えるプランナーの仕事は、お客様の思いを引き出すコミュニケーション能力、提案力、問題回避能力など求められるものは様々です。知識やスキルと共に、プランナーとしての考え方を身につけ、社会人として一歩を踏み出す準備をしましょう。最善を尽くして迎える結婚式、お客様の笑顔に触れる喜びは、何にも代え難いものとなるでしょう。

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルトータルプロデュース】 リアルウェディング基礎 I  Real Wedding Basic I	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員
		授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	60  4	開講区分  曜日/時限
学科	ブライダル総合科					
【担当教員・実務者経歴】						
2003年4月～2007年3月・美術大学 立体アート学科にて彫刻・空間デザイン作品の制作を行う。※文部省認定色彩検定1級取得 2007年4月～2011年11月・株式会社テイクアンドギヴ・ニーズにてウェディングプランナー・チーフを経験／SHOTO GALLERY(渋谷)・青山迎賓館(表参道) 2011年11月～現在・株式会社スタイルズの創業に伴い、1号店THE STYLE・2号店KIYOMIZU京都東山のOPENに携わる。ブライダルオペレーションの構築と商品企画、プランナー育成、会場設備のデザインなどを担当。2013年にヒューマンリソース室を立ち上げ、以降、主に採用や研修、評価制度などの構築・運営を担当。						
【授業の学習内容】						
①タイプの異なる相手と良好な関係を築くための基礎知識 ②ヒアリング・カウンセリングの基本テクニック ③コンセプトウェディングのベースとなる“ストーリー・テーマ”の設定方法						
【到達目標】						
①サービス業に携わる上で必須となる、コミュニケーション能力を身につける事を目的とし、主に、ヒアリングとパーソナルタイプに合わせた接客手法について学びます。 ロールプレイングを通じてヒアリングの基礎技術が習得出来ている状態を目指しましょう。 ②コンセプトウェディングのベースとなる“ストーリー・テーマ”の設定が出来ている状態を目標とします。						
回数	日にち	授業計画・内容				
1回目		オリエンテーション:ブライダル業界でどの様に活躍したいか未来を想像することが出来る ①講師自己紹介、②プランナーに求められる要素(時代の変化)、③自己紹介シート記入				
2回目		導入:1年後の“なりたい姿”に向け、達成までのプロセスを理解することが出来る ①パーティ実例紹介、②年間カリキュラム説明、③授業に取り組む上での心得・お約束事				
3回目		ソーシャルスタイル基礎Ⅰ:コミュニケーションを取る上で相手を観察することが重要であることを理解出来る ①ソーシャルスタイル診断、②各ソーシャルスタイルの特徴				
4回目		ソーシャルスタイル基礎Ⅱ:ソーシャルスタイルに合わせて自身の表現をどの様に変わっていくべきか、“考える”ということが出来るようになる ①各ソーシャルスタイルの特徴整理、②心地よさと感じる接客とは(タイプ毎に分析)				
5回目		クラスタ分析基礎Ⅰ:クラスタ(趣味趣向の属性)について理解出来る ①クラスタ診断、②各クラスタの特性				
6回目		クラスタ分析基礎Ⅱ:クラスタに合わせて表現(伝え方)を変える必要があるということを理解出来る ①クラスタ毎に響くワード・ビジュアルの具体的な事例				
7回目		カウンセリング:カウンセリングの目的と“本当の望みを知る”までの過程を理解することが出来る ①同意形成、②意思を確認するための方法、③SWIthのワーク				
8回目		ヒアリング:本当の望みを知るための基本的なヒアリング手法について学び、技術習得に向けて取り組むことが出来る ①縦の質問・横の質問、②ロープレ				
9回目		カウンセリングロープレ:“縦・横の質問”を意識しヒアリングを行うことが出来る ①ロープレ、②振り返り・総括				
10回目		プランニング:テーマウェディングを実現する上で必要な要素を理解している ①プランニングとは、②パーティの構成要素、③カリキュラムの概要(プロジェクトブック完成までの主な講義内容)				
11回目		ストーリー・テーマ設定Ⅰ:ストーリー・テーマの作成にチャレンジ出来る ①ストーリー・テーマの重要性、②実例紹介、③発表方法リソース				
12回目		ストーリー・テーマ設定Ⅱ:ストーリー・テーマの作成にチャレンジ出来る ①ストーリー・テーマ作成(個人ワーク)				
13回目		ストーリー・テーマ設定Ⅲ:ストーリー・テーマの作成を行うことが出来る ①ストーリー・テーマ作成(個人ワーク・フィードバック)、②発表(予選)				
14回目		ストーリー・テーマ設定Ⅳ:ストーリー・テーマの作成を行うことが出来る、またクラスメイトの発表を参考に語彙力を伸ばすことが出来る ①発表(最優秀賞決定)、②振り返りテスト				
15回目		ストーリー・テーマ設定Ⅴ:ストーリー・テーマの作成を行うことが出来る、またクラスメイトの発表を参考に語彙力を伸ばすことが出来る ①総括				
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。				
評価方法		出席率50%+授業態度評価10%+技術評価40% なお、本授業における技術評価は以下の割合にて行う ※技術評価内訳・ストーリー・テーマ発表(20%)、筆記テスト(20%)				
受講生へのメッセージ		お客様から信頼を得る事が出来るウェディングプランナーになる為には、“何でも話したい”、“話を聞いて欲しい”と思っていられる、聞き上手にならなくてはなりません。ドレスやジュエリーのアドバイザーも同様です。授業を通じて、良好なコミュニケーションに必須となる傾聴力を磨きましょう！ 「会話が苦手だな…」と思う方も大丈夫です。コツを理解し意識を持って訓練をすれば、少しずつ力を伸ばすことが出来ます！ グループワークやロールプレイングを通して、就職活動や社会にデビューした際に役に立つ力を身につけていただきたいと思います。 参加型の授業が多いので、皆さんと一緒に良い授業の時間を作っていきます！				
【使用教科書・教材・参考書】						
筆記用具						

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルヘア・メイクⅠ】 ブライダルトータルビューティーⅠ  Bridal total beautyⅠ	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科	ブライダル総合科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							
ブライダルヘアメイクアーティストとして15年以上活動。 現在も現場活動をしながら、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA-shu uemura認定講師として、メイクアップ技術の養成に携わる。							
【授業の学習内容】							
ブライダルのどの分野に携わってもヘアメイクの知識は必要不可欠。「メイクの基本理論、ヘアセットの基本」を学習。 まずは、自分自身の印象を左右する身だしなみメイクを学ぶ。 その後ヘア実習を通して、道具の扱い方、デザイン作成の基礎、接客ポイント等、花嫁様にトータルでアドバイスできる知識を学習する。							
【到達目標】							
1)セルフメイク実習を通しメイク理論を学び、接客にふさわしい身だしなみができるようになる。 2)ヘア基礎を通し、簡単なヘアセットができるようになり、トータルでコーディネートできる知識、接客力を身につける。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション) 授業の概要を理解し、美容道具の名称や衛生管理を学ぶ
2回目		(自己分析) 顔の基本プロポーションを学び、自分自身がどのような印象なのかを知り、顔の印象を分析できるようになる。 (スキンケア) スキンケアのアイテムの違い等を学び、正しいスキンケアができるようになる。
3回目		セルフメイク①(ベースメイク) コントロールカラー、ファンデーション、コンシーラーの基礎を知り、様々なアイテムを使用して、ベースメイクを仕上げられるようになる。
4回目		セルフメイク②(アイブロウ) アイブロウの基本を知り、正しいバランスと自分に合ったアイテムで眉を描けるようになる。
5回目		セルフメイク③(アイシャドウ、アイライン、ビューラー、マスカラ) 基本知識、錯覚を学び、自分に合ったアイメイクに仕上げられるようになる。
6回目		セルフメイク④(チーク・リップ) チークの基本ののせ方、錯覚理論を知り、顔のバランスを変える事ができるようになる。リップの基本知識を知り、正しく塗る事ができる。
7回目		(セルフメイク総復習)これまでのポイントを活かし、基本バランスでセルフメイクを完成させられるようになる。 (グループワーク① 研究課題:ヘア基礎前のブライダルヘアメイクに関する資料集め。)
8回目		(筆記テスト) 基本のメイクの理解度を確認 (グループワーク② ブライダルヘアに関する資料集め)
9回目		ヘア基礎① ヘア道具の名称、道具の衛生管理を学ぶ。(グループワーク③ プレゼンテーション: 集めた資料を基に発表)
10回目		ヘア基礎② 頭部名称を学びブロッキングができるようになる。
11回目		ヘア基礎③ ホットカーラーの基本の巻き方ができるようになる。
12回目		ヘア基礎④ 現場の感覚を身につける為、タイムを意識しホットカーラーが巻けるようになる。/アメリカピンでピンニングができるようになる。
13回目		ヘア基礎⑤ ヘアアイロンを扱えるようになる。・丸ゴムを使用しポニーテールができるようになる。
14回目		ヘア基礎⑥ 表編み込み裏編み込みができるようになる。/ 相モデルでホットカーラー後、編み込みチャレンジ。
15回目		ヘア基礎⑦ 簡単な編み込みアレンジができるようになる。相モデルでアレンジに挑戦。

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎グループワークでの発表内容25%・道具を常に整頓・清潔に保つ25%・筆記テスト50%
受講生へのメッセージ	身だしなみの基礎となるセルフメイクを学ぶ事から始めていきます。お客様から好感を持ってもらえる社会人として必要な身だしなみのメイクや、イメージに合わせてメイクを変えたりと、メイクを通してセルフプロデュース力をつける第一歩にしましょう!! 挨拶、時間、道具を清潔に保つ事は常に意識し、行動して下さい!また、一年間の実習内容すべては花嫁様の為になり、とても重要な接客力となります。トータルで表現する基礎を一緒に身につけ、自分自身の力にしましょう!!  ※毎時間、道具一式、筆記用具持参。ヘア授業の変わり目の回は特に忘れ物に注意してください。その他持ち物は適宜お知らせ致します。 ※セルフメイク授業では、開始時ノーメイクにておいてください。

【使用教科書・教材・参考書】

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ブライダルヘア・メイクⅠ】 ブライダルトータルビューティーⅡ Bridal comprehensive exercisesⅡ	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	
学科	ブライダル総合科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

**【担当教員 実務者経験】**

ブライダルヘアメイクアップアーティストとして、15年以上活動。  
アーティストとしての活動をしながら、一般社団法人JMA(日本メイクアップ技術検定協会)にて認定講師としても活躍。

**【授業の学習内容】**

メイクアップの基礎知識を身につけて、個々のフェイスプロポーションと理想とするゴールデンプロポーションのギャップを把握し基本のベースメイク作り&ポイントフルメイクの定義を学んだ上で、イメージの幅を広げ応用メイクを学ぶ。

**【到達目標】**

お客様のご要望に合わせたブライダルメイクアップ技術を提供できる人材になる為に、応用のベースメイクテクニックとポイントフルメイクテクニックを学び、相モデルで練習することで、複数のパリエーションのフルメイク実技を自信を持ってできるようになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		<メイク>ブライダルメイクⅠ キュートメイクができるようになる
2回目		<メイク>ブライダルメイクⅡ エレガントメイクができるようになる
3回目		<メイク>ブライダルメイクⅢ フレッシュメイクができるようになる
4回目		<メイク>ブライダルメイクⅣ クールができるようになる
5回目		<メイク>トレンドメイクを理解し、できるようになる
6回目		<メイク>真似メイク。なりたい顔No.1の女優メイクを理解し、できるようになる
7回目		<メイク>和装メイク。着物、振袖に合うメイクを理解し、できるようになる
8回目		<メイク>後期試験。スキンケア～フルメイクまでを40分以内でできるようになる。
9回目		<ヘアメイク>編み込み「表編み、裏編み、フィッシュボーンの基本的なスタイリングができるようになる。」
10回目		<ヘアメイク>ロープ編みを使用したルーズアップスタイル 「ルーズなアップスタイルをバランスを見ながら完成させられるようになる。」 座学:現場での注意点、ヘルプの仕方等を知る。
11回目		<ヘアメイク> カールアップスタイル①「前期で学んだ技術をもとに毛たばを使用し、シンプルなカールスタイルのプロッキング、スタイリングができるようになる。」
12回目		<ヘアメイク> カールアップスタイル②「襟足の抱き合わせ方法を学び、カールスタイルに変化をつけられるようになる。」(次週に向け各自希望のスタイル持参)
13回目		<ヘアメイク> 実践①「9-12回目までに学んだ技術を用い、相モデルにて実践。相手の要望に応えられるようになる。」(次週に向け各自希望のスタイル持参)
14回目		<ヘアメイク> 実践②「9-12回目までに学んだ技術を用い、相モデルにて実践。相手の要望に応えられるようになる。」(次週に向け各自希望のスタイル持参)
15回目		<ヘアメイク> 実践③「9-12回目までに学んだ技術を用い、相モデルにて実践。相手の要望に応えられるようになる。」

**評価基準**

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

**評価方法**

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。  
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。  
・後期試験50点  
・持参物、衛生面40点  
・受講者の身だしなみ10点 以上合計100点とし、40%計算を行う。

**受講生へのメッセージ**

ブライダル総合コースの皆さんには、ブライダルのスペシャリストとしてメイクアップの基礎知識を習得し、お客様に基本のフルメイクができるようになることで更に自信を持ってブライダルの道へ進んで欲しいと思っています。楽しみながらもメイクのパリエーションをしっかり学んで身につけて欲しいと思っています。皆さん自身もメイクに興味関心を抱いていただけたらと思います。また、肌やメイクの悩みなどありましたら、授業通してお答えしていきますので、お気軽に質問してください。

**【使用教科書・教材・参考書】**

メイク教材一式、セルフメイクのテキスト

## 授業シラバス

科目名 (英)	【トータルビューティー】 セルフメイク I	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	
	self make	授業 形態	講義 演習	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダル総合科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
アーティストブランド(化粧品会社)での勤務を経て、その経験や色彩・メイクの知識を生かし講師となる。 JMA認定講師、シェウウエムラ認定講師、AFT認定色彩講師、。							
【授業の学習内容】							
花嫁に頼りにされるプロの「ブライダルプランナー」として、自分自身を綺麗に整えることはとても大切。 まず、自身の看板となる顔を分析しその個性を知る。次に、基本のメイク知識と技術を部分ごとに学び、誰からも好印象を持ってもらえる自分自身のためのメイクアップ方法を学習する。							
【到達目標】							
プロのプランナーとしての身だしなみメイク、花嫁やお客様から好印象を持ってもらえるメイクができるようになる。 また、提案や接客にも活かせるメイクの基礎知識が身につく。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション)メイクに必要な化粧品や道具を知る、プロとしての身だしなみメイクを理解する
2回目		(顔を知る)顔分析をし、自分の顔が持つ個性を知ることができる <span style="float: right;">★定規持参 ★ノーメイク</span>
3回目		(ベースメイク①)肌を保護し美しく見せるベースメイクができるようになる ・化粧下地 ・ファンデーション ・フェイスパウダー <span style="float: right;">★ノーメイク</span>
4回目		(ベースメイク②)肌を保護し美しく見せるベースメイクができるようになる ・コントロールカラー ・コンシーラー <span style="float: right;">★ノーメイク</span>
5回目		(ベースメイク③、トレンドメイク①)肌を保護し美しく見せるベースメイクができるようになる メイクトレンドを知ることができる ・ベースメイク復習 ・ヘルシーメイク <span style="float: right;">★ノーメイク</span>
6回目		(アイメイク)印象的な目に仕上げるアイメイクができるようになる ・アイシャドウ ・アイライン ・アイラッシュカーラー ・マスカラ <span style="float: right;">★ベースメイクのみ ポイントはアイメイク以外は可</span>
7回目		(アイブロー)自分の顔に合った基本の眉が描けるようになる <span style="float: right;">★ベースメイクのみ ポイントはアイブロー以外は可</span>
8回目		(ベースメイク④、トレンドメイク②)肌を保護し美しく見せるベースメイクができるようになる メイクトレンドを知ることができる ・上品なツヤ肌の作り方 ・カラーメイク <span style="float: right;">★ノーメイク</span>
9回目		(リップ、チーク)美しい口元、健康的な頬を演出することができるようになる <span style="float: right;">★ベースメイクのみ ポイントはリップ、チーク以外は可</span>
10回目		(フルメイク①)メイクで自分のイメージをコントロールすることができるようになる ・『綺麗』大人メイク <span style="float: right;">★ベースメイクのみ</span>
11回目		(フルメイク②)メイクで自分のイメージをコントロールすることができるようになる ・『ふんわり穏やか』癒しメイク <span style="float: right;">★ベースメイクのみ</span>
12回目		(前期試験、フルメイク③)メイクで自分のイメージをコントロールすることができるようになる ・前期試験【筆記】 ・課題提出 ・『できる女』お仕事メイク ※リクエストに対応し変更あり <span style="float: right;">★ベースメイクのみ</span>
13回目		(トレンドメイク③)2020-21秋冬のトレンドが分かるようになる <span style="float: right;">★ベースメイクのみ</span>
14回目		(就活メイク)好印象を与える就活メイクができるようになる <span style="float: right;">★ノーメイク</span>
15回目		・レポート提出

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎課題提出 20% ◎前期試験の点数 80% ◎レポート提出
受講生へのメッセージ	授業で習ったメイクを実践し復習してください。 授業内ではいつもの自己流メイクにならないようにしてください。 使用するメイク道具は常に清潔に保ち手入れしておいてください。 毎回、忘れ物がないようにし、スタート時には指示されたメイク状態★に素早く整えることができるように努めてください。
【使用教科書・教材・参考書】	
メイク道具一式、セルフメイクのテキスト、筆記用具	

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティー】 ドレススタイリストⅠ	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
	Dress Stylist I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科	ブライダル総合科				4	曜日/時限	

**【担当教員 実務者経験】**

1987年オートクチュールを学びドレス業界に関わる。1995.9～2012.10迄 東京某大手デパートのブライダル部門に所属し、桂 由美プレタオートクチュールサロンを始め婚礼や結納等のプロデュース・プランニング・ドレスの企画・デザイン・スタイリスト等、幅広く手掛ける。その間芸能人・女性アナウンサーを含め1000組余りの挙式を担当する。

**【授業の学習内容】**

日本の伝統文化「しきたり」を学ぶことで「日本のおもてなしの心」を知る。この心より人間関係・コミュニケーション能力が養われる。「おもてなしの心」をより深く理解をして、衣装の基礎知識を学んでいく事で、接客力や応用力がより強化される。

**【到達目標】**

ブライダル業界の現状とノウハウを学ぶ事で、ブライダル(衣装・接客)の専門知識を習得できる。その学びにより、スタイリストとして自信を持ち、様々な角度から幅広く、お客様にとって最も相応しいご提案ができるようになる。

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		衣装の基礎知識 オリエンテーション(志望動機・自己紹介・生徒・講師)
2回目		衣装の基礎知識 実技 ウェディングドレス試着 (好きなドレスを着てみる)
3回目		衣装の基礎知識 実技 インナーを着けてドレス試着 (採寸・自分のサイズを知る)
4回目		衣装の基礎知識 実技 美しくドレスを着ることが出来るようになる。インナーの重要性を知る
5回目		衣装の基礎知識 実技 EDを美しくドレスを着ることができ、小物もコーディネートできるようになる
6回目		衣装の基礎知識 実技 ドレスを着た状態での立ち振る舞いができるようになる( 歩く・座る・ターン・チャペルを歩く)
7回目		衣装の基礎知識 実技 ドレスの内側の採寸ができるようになる (よりドレスの知識が深まる)
8回目		衣装の基礎知識 実技 フォーマルについて(レディース)画像併用
9回目		衣装の基礎知識 実技 フォーマルについて(メンズ)画像併用
10回目		衣装の基礎知識 実技 メンズの衣装の襟の形や小物を学ぶ・採寸等を学ぶ事で寄り深く衣装が理解出来るようになる
11回目		衣装の基礎知識 実技 ファーストアプローチとは・ドレススタイリストとは
12回目		衣装の基礎知識 実技 お日柄とは(ブライダル業界では大切なこと・他業種の営業活動にも深く関わる、大切な知識)
13回目		衣装の基礎知識 実技 前期試験に付いて復習と質問(レポート課題 何を学び・何に興味を持ったか?)
14回目		衣装の基礎知識 試験
15回目		衣装の基礎知識 フィードバック(解答状況により変更もある)

**評価基準**

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。  
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

**評価方法**

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験60点・レポート40点等評価)40%とする。

**受講生へのメッセージ**

しきたりの「婚」とは人生での通過儀礼の一つである。新郎・新婦様にとり最高の至福の時であり、唯一自身が自覚し驚く事が出来るのが「婚」という儀礼である。新郎新婦にとっては、結婚式は人生最大のセレモニーとなります。婚礼に携わる者として向き合うのではなく、お二人に寄り添い、最善でお二人を人らしい結婚式をご提案し、心から喜んで満足して頂いた時こそ最高の達成感にひたれるのです。ブライダルを仕事として選択した事は正しかったと確信できるのです。大変でもありますが、這り甲斐のある仕事だと思います。

**【使用教科書・教材・参考書】**

講師作成テキスト・参考文献 (全日本ブライダル協会資料・日本フォーマル協会資料)

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティー】 ドレススタイリストⅡ	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
	Dress Stylist Ⅱ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60	開講区分	
学科	ブライダル総合科				4	曜日/時限	
【担当教員、実務者経歴】							
1987年オートクチュールを学びドレス業界に関わる。1995.9～2012.10迄 東京某大手デパートのブライダル部門に所属し、桂 由美プレタオートクチュールサロンを始め婚礼や結婚等のプロデュース・プランニング・ドレスの企画・デザイン・スタイリスト等、幅広く手掛ける。その間芸能人・女性アナウンサーを含め1000組余りの挙式を担当する。							
【授業の学習内容】							
日本の伝統文化「しきたり」を学ぶことで「日本のおもてなしの心」を知る。この心より人間関係・コミュニケーション能力が養われる。「おもてなしの心」をより深く理解をして、衣装の基礎知識を学んでいく事で、接客力や応用力がより強化される。							
【到達目標】							
ブライダル業界の現状とノウハウを学ぶ事で、ブライダル(衣装・接客)の専門知識を習得できる。その学びにより、スタイリストとして自信を持ち、様々な角度から幅広くお客様にとって最も相応しいご提案ができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	衣裳の基礎知識 オリエンテーション(目標ドレスに触れる)
2回目	衣裳の基礎知識 実技 ドレスの見せ方。ディスプレイの仕方が理解できるようになる(ボディーハンガー・ハンガー・ボディー等)
3回目	衣裳の基礎知識 実技 6ラインのドレスを着る(ボディメイクをする)
4回目	衣裳の基礎知識 実技 6ラインのドレスを着る(ボディメイクをする)
5回目	衣裳の基礎知識 実技 ソフレ(カラードレス)全てのタイプを着る(ジャストフィットやお直しも考えることが出来るようになる)
6回目	衣裳の基礎知識 実技 ソフレ(カラードレス)全てのタイプを着る(ジャストフィットやお直しも考えることが出来るようになる)
7回目	衣裳の基礎知識 実技 WDからEDへのチェンジ(約15分) 簡単なイメージ ヘアー・メイクができるようになる
8回目	衣裳の基礎知識 実技 WDからEDへのチェンジ(約15分) 簡単なイメージ ヘアー・メイクができるようになる
9回目	衣裳の基礎知識 実技 ドレスの裾さばき、歩き方、アテンドの仕方(ベールも着ける)チャペルを歩く
10回目	衣裳の基礎知識 実技 ドレスの裾さばき、歩き方、アテンドの仕方(ベールも着ける)チャペルを歩く
11回目	衣裳の基礎知識 実技 スタイリストの営業ができるようになる(ファーストアプローチからドレスをえらび、単価アップする)
12回目	衣裳の基礎知識 実技 メンズのお直しができるようになる(着てみる 小物も着ける)
13回目	衣裳の基礎知識 実技 留袖採寸・柄いき・家紋と試験の説明(質問)
14回目	衣裳の基礎知識 試験
15回目	衣裳の基礎知識 フィードバック

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験60点・レポート40点等評価)40%とする。
受講生へのメッセージ	しきたりの「婚」とは人生での通過儀礼の一つである。新郎・新婦様にとり最高の至福の時であり、唯一自身が自覚し楽しむ事が出来るのが「婚」という儀礼である。新郎新婦にとっては、結婚式は人生最大のセレモニーとなります。婚礼に携わる者として向き合うのではなく、お二人に寄り添い、最善でお二人をらしい結婚式をご提案し、心から喜んで満足して頂けた時こそ最高の達成感にひたれるのです。ブライダルを仕事として選択した事は正しかったと確信できるのです。大変でもありますが、遣り甲斐のある仕事だと思えます。
【使用教科書・教材・参考書】	
講師作成テキスト・参考文献 (全日本ブライダル協会資料・日本フォーマル協会資料)	

## 授業シラバス

科目名 (英)	【資格試験講座】 シュウウエムラメイクアップ I	必修 選択	必須選択	年次	1	担当教員	
	shu uemura make up I	授業 形態	演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限	
学科	ブライダル総合科						
【担当教員_実務者経験】							
アーティストブランド(化粧品)での勤務を経て、その経験や色彩・メイクの知識を生かし講師となる。講師歴20年。 JMA認定講師、シュウウエムラ認定講師、AFT認定色彩講師。							
【授業の学習内容】							
世界最大の化粧品会社ロレアルグループに属するブランド『shu uemura』のシグネチャーメソッドを習得する。 後期末に予定されている検定試験合格を目指す。							
【到達目標】							
幅広い現場で活躍できるブライダルヘアメイクアーティストやスタイリストとして必要なメイクアップの知識と技術の向上を図る。 また、“美”を提供するプロとして必要なマナーや身だしなみ、立ち居振る舞いを身に着ける。 shu uemuraのシグネチャーメソッドを習得し、shu uemuraが認めるメイク技術ができるようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容	
1回目		(オリエンテーション)検定説明、検定受験までの流れ (ポイントメイククレンジング)シグネチャーメソッドに沿ったポイントメイククレンジングができるようになる セッティング、なぎなた削り確認	
2回目		(ベースクレンジング)シグネチャーメソッドに沿ったベースクレンジングができるようになる ポイントクレンジング復習	
3回目		(ベースメイク)シグネチャーメソッドに沿ったベースメイクができるようになる スキンケア復習	
4回目		(スキンケア～ベースメイク)スキンケア～ベースメイク 計測して目標値を目指す リップメイクのブラッシュアップ	
5回目		(中間試験)試験内容: モデルセッティング～手指消毒～スキンケア 18分 ベースメイク 計測して目標値を目指す、アイブロウメイクのブラッシュアップ	
6回目		(ベースメイク～ポイントメイク)ベースメイク 計測して目標値を目指す ポイントメイクのブラッシュアップ	★ノーメイク
7回目		(基本知識)皮膚、筋肉、骨格の基本知識が分かるようになる (ベースメイク～ポイントメイク)ベースメイク 計測して目標値を目指す、ポイントメイクのブラッシュアップ	★ノーメイク
8回目		(なぎなた削り)※なぎなた削り 提出、ハードフォーミュラ配布 (トータルレッスン)シュウウエムラシグネチャーメソッドがトータルでできるようになる スキンケア～ベースメイク 計測して目標値を目指す、ポイントメイクのブラッシュアップ	
9回目		(なぎなた削り)ハードフォーミュラなぎなた削り確認 (トータルレッスン)スキンケア～ベースメイク 計測して目標値を目指す、ポイントメイクのブラッシュアップ 検定必要備品配布予定(コットン45枚が入るチャック付きポリ袋などを持参)	
10回目		(トータルレッスン)スキンケア～ベースメイク 計測して目標値を目指す、ポイントメイクのブラッシュアップ 試験&検定ペア組み	
11回目		(ポイントメイク)ポイントメイク集中レッスン、スキンケア計測	★ベースメイク
12回目		(トータルレッスン)モデルセッティング～手指消毒～乳液～ベースメイク～ポイントメイク 37分で計測	
13回目		(試験)試験内容: 事前準備 8分、モデルセッティング～手指消毒～乳液～ベースメイク～ポイントメイク 37分	
14回目		(トータルレッスン)前半	
15回目		(トータルレッスン)後半	

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎なぎなた削りの完成度_10%    ◎中間試験_30%    ◎試験60%
受講生へのメッセージ	名札をつけて授業に参加して下さい(施術時には「テーブルの上、背中側に回す」など可)。 伸びて長い爪・汚い爪はNGです。適度な長さで切り清潔な状態で施術に臨んでください。 授業は、特に指示がなければ基本フルメイクで参加してください。 授業で習ったことを後日実践し復習してください。 美意識・プロ意識を高く持ち、各授業に参画して充実した学校生活を送ってください。

【使用教科書・教材・参考書】	シュウウエムラテキスト、メイク道具一式、授業ファイル(2穴ファイル)、ルーズリーフ、筆記用具
----------------	--

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ドレス&ビューティー】 ブライダルビューティー	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	
	Bridal Beauty				60	開講区分	
学科	ブライダル総合科	授業 形態	講義演習	時間数 (単位)	4	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
フリーランスのヘア&メイクアップアーティストとして長年活動、講師業も行い現在に至る。JMA認定講師・JMAシェウウエムラ認定講師も兼任。管理美容師免許、化粧品・ブライダル・エステティック・インナービューティなど経験と知識を持ち、美容業界の多方面からトータルビューティーアーティストとしての顔も持つ。							
【授業の学習内容】							
ブライダルやビューティに携わる上でお客様のニーズにこたえる事はもちろん、「似合わせる・短時間で仕上げる・TPOに応じたアレンジ力を持つ・お客様とのコミュニケーションを積極的に作れる」など必要とされているレベルは高くなっております。講義で知識を学び、実習で基礎の復習から応用力までを身につけます。							
【到達目標】							
知識・技術力を更にスキルアップし、イメージを捉える力をつけアレンジ力やスタイリング力を高め、ブライダルテーマに基づいたビューティーコーディネート制作ができるようになる。前期では、ブライダルにおいてアシスタントレベルから携わる事多いご列席者・ご参加者のヘアメイクスタイル、需要が高まっているメンズのヘアメイクスタイルができるようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		〈オリエンテーション〉・ブライダルヘアメイクについて、授業内容、目的を理解し目標設定できるようになる（準備物、道具確認をします 筆記用具必須）
2回目		〈技術・復習チェック〉・これまで学んだ技術や知識の確認、前回の授業にて行った目標設定とスキルアップの明確化が具体的にできるようになる
3回目		〈造形理論・イメージ理論〉 イメージ表現や似合わせにを習得し、個人に似合わせたバリエーションを考えることができるようになる。
4回目		〈イメージ理論・実技①〉 若々しいイメージスタイルを表現するための理論・実技（グループワーク）・列席者や参加者のヘアメイクができるようになる
5回目		〈イメージ理論・実技②〉 大人っぽいイメージスタイルを表現するための理論・実技（グループワーク）・列席者や参加者のヘアメイクができるようになる
6回目		〈イメージ理論・実技③〉 洋装イメージスタイルコーディネートをする（グループワーク）・列席者や参加者のヘアメイクができるようになる
7回目		〈イメージ理論・実技④〉 和装の若々しいスタイルを表現するための理論・実技（グループワーク）・列席者や参加者のヘアメイクができるようになる
8回目		〈イメージ理論・実技⑤〉 和装の大人っぽいスタイルを表現するための理論・実技（グループワーク）・列席者や参加者のヘアメイクができるようになる
9回目		〈イメージ理論・実技⑥〉 和装イメージスタイルコーディネートをする（モデル）・列席者や参加者のヘアメイクができるようになる
10回目		〈イメージ理論・実技⑦〉 メンズメイクの知識・技術（相モデル）・列席者や参加者のヘアメイクができるようになる
11回目		〈イメージ理論・実技⑧〉 メンズヘアの知識・技術（モデル）・列席者や参加者のヘアメイクができるようになる
12回目		〈トータルヘアメイクレッスン〉・試験テーマに基づいて各グループごと準備・練習をする・試験日はモデル有予定、時間+準備+技術の計画設定ができるようになる。
13回目		〈試験〉 試験課題①・・・テーマに基づく実技+シート作成
14回目		試験課題②・・・テーマに基づく実技+シート作成
15回目		〈トータルレッスン〉まとめと、次に向けて目的・目標を設定することができる・道具のメンテナンス

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価（不合格）とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価（聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度）10% + 技術評価（もしくは試験・レポート等評価）40% とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・試験 課題①実技40点 + デザインシート作成5点 + グループワーク5点 課題②実技40点 + デザインシート作成5点 + グループワーク5点 ①+②の合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	お客様に美を提供するうえでヘアメイク技術の技術は欠かせません。 授業ではヘアメイクを学びながら、コミュニケーション力を上げる・マナーを踏まえる・イメージに合わせ仕上げるなど様々な観点から習得し、幅広く役立つ内容にしております。ブライダル内容を組み込んでいますので、即実践型へつなげるメリットもあります。各回欠席することなくしっかりと取り組みましょう。 授業で使用する道具も多くあります。準備や片付けに時間を取りますのでスケジュールを考え早めの行動をしてください。

【使用教科書・教材・参考書】	
使用教科書・教材/ 適宜・プリント等配布予定 持参道具/ ヘア・メイク道具一式、筆記用具、A4ファイル 注意事項/ 相モデル・外部モデル・グループワーク授業と様々な形態で行います。お互い協力し取り組むこと。爪の長さやメンテナンスに注意する。毎回必ず復習しておくこと。	

## 授業シラバス

科目名 (英)	【日本の伝統文化】 茶道Ⅰ  tea ceremonyⅠ	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	
学科	ブライダル総合科	授業 形態	演習実習	時間数 (単位)	30  2	開講区分	曜日/時限
【担当教員、実務者経験】							
大学時に師に出会い入門。2009年専任講師取得。カルチャースクール講師アシスタントとして活動。							
【授業の学習内容】							
茶道を通して和室での立ち振る舞いや姿勢だけでなく、自分の心を落ち着かせ自分に向き合うこと、他者への気遣いやおもてなしの心を身につける。							
【到達目標】							
茶道を学ぶことによってお辞儀、襖の開け開め、歩き方などの和室での立ち振る舞いの基礎ができるようになる。おもてなしの心を身につけ盆略点前ができるようになる。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		オリエンテーション: 茶道の意義を知る。和敬清寂を知る。
2回目		和室での立ち振る舞い①: お辞儀の仕方、お抹茶の頂き方、お菓子の頂き方を学ぶ。
3回目		和室での立ち振る舞い②: 立ち方、歩き方、襖の開け方、お軸の拝見の方法を学ぶ。
4回目		和室での立ち振る舞い③: 水屋の働き方、道具基礎知識、お茶の運び、お菓子の運び方を学ぶ。
5回目		割稽古①: 袱紗捌きを学ぶ。袱紗を使い薬と茶杓を清める。
6回目		割稽古②: 茶巾の扱いを学ぶ。茶巾のたたみ方、お茶碗の清め方を学び、袱紗捌きを復習する。
7回目		割稽古③: 茶筌しらべを学ぶ。袱紗捌きから茶筌までをとおして学ぶ。
8回目		盆略点前①: 客と亭主に分かれお茶を点てるまで学習する。
9回目		盆略点前②: 客と亭主に分かれお茶を点てるまで学習する。
10回目		盆略点前③: 客と亭主に分かれ、お仕舞いまで通して学ぶ
11回目		盆略点前④: 客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし身につけるようにする。
12回目		盆略点前⑤: 客と亭主に分かれ、お仕舞いまでお稽古をし身につけるようにする。
13回目		試験: 和室での立ち振る舞い、盆略点前の演習を行う。
14回目		試験: 和室での立ち振る舞い、盆略点前の演習を行う。一部、筆記試験を行う。
15回目		振り返り: 試験の解説後、初回授業からの振り返りを行いお互いに心をこめてお茶を点てる。
評価基準		A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法		出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎筆記試験10点 + 実技試験90点
受講生へのメッセージ		初めて茶道に触れる方が多いと思います。茶道の授業を通して自分の心が安らぎ、周りの方へ気遣いや思いやりがもてる行動ができるように学んで頂ければと思います。
【使用教科書・教材・参考書】		

## 授業シラバス

科目名 (英)	【ウェディングプロジェクト】 イベントプランニング I	必修 選択	必須選択	年次	1	担当教員	
	Event planning I	授業 形態	演習	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
学科	ブライダル総合科					曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
プロダクションでのマネージャーを経て、イベント制作へ転身し現在に至る。 大型フェス・ファッションショーでの制作業務に従事する。							
【授業の学習内容】							
企画立案・企画書作成、プレゼンテーション力、 そして、イベント制作過程に合わせてその際に必要なスキルや知識を学ぶ講義と実務を行います。							
【到達目標】							
イベントを一から企画し、制作、当日の運営 全てを担える力を習得することを目標とします。 そして、チームで取り組む力・タイムマネジメント等 プロへの第一歩を育みます。 イベント運営における基礎知識・制作・運営に必要な知識・スキルを習得することを目指します。							
回数	日にち	授業計画・内容					
1回目		【オリエンテーション】 これから取り組むイベント企画の概要・趣旨を理解する					
2回目		【企画立案力を身に付ける】 企画を立案するために「アイデア出し」～「アイデアを企画」が出来るようになる					
3回目		【企画書の作り方を身に付ける】 ① 企画書とは…／② 公演概要を理解する					
4回目		【企画書の作り方を身に付ける】 ③ 制作スケジュールを理解する					
5回目		【プレゼンテーション力を身に付ける】 プレゼンテーションに必要な準備・ポイントを理解する					
6回目		プレゼンテーション					
7回目		プレゼンテーションのフィードバック イベント制作の流れを理解する（打ち合わせ／準備物／下見とは）					
8回目		【イベント制作の基礎知識】 実施マニュアルについて理解する					
9回目		実施に向けて準備進行					
10回目		実施に向けて準備進行					
11回目		(イベントを終えて)反省会～報告書の作成が出来るようになる。					
12回目		【イベント制作の基礎知識】 タイムスケジュールを作成出来るようになる。					
13回目		【イベント制作の基礎知識】 収支を含む必要経費等の算出・概算予算について理解する					
14回目		【イベント制作の基礎知識】 集客するとは					
15回目		振り返り					
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・グループワークへの取り組み方 ・プレゼンテーションへの取り組み方 ・イベント当日への取り組み方						
受講生へのメッセージ	"夢"を"仕事"にするための基礎を築く授業です。 イベントを創る仕事を理解し、どんな仕事・役割があるのか、またイベントを創るための工程の基礎を学ぶ必要があります。 良いイベントを創るために、まず自らが楽しんで、知識を身に付けていきましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】							

## 授業シラバス

科目名 (英)	【カースタyling】 カースタylingビューティー	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	
	color styling beauty	授業 形態	座学	時間数 (単位)	30	開講区分	
学科	ブライダル総合科						曜日/時限
【担当教員、実務者経験】							
アーティストブランド(化粧品会社)での勤務を経て、その経験や色彩・メイクの知識を生かし講師となる。 AFT認定色彩講師、JMA認定講師、シェウウエムラ認定講師。							
【授業の学習内容】							
スタイリングやコーディネート、ヘアメイクに欠かせない『色彩』。 色彩理論、色彩心理、配色、カースタylingなど、色彩の基礎を学習する。							
【到達目標】							
色彩の基礎が身につく、シーンに合わせた配色ができるようになる。また、色を通して自己分析ができる。 幅広い現場で活躍できるスタイリストやアーティストとして必要な知識の向上を図る。							

回数	日にち	授業計画・内容
1回目		(オリエンテーション)「色」とは何か、仕事や生活にどう活かされるかなどを理解することができる ・カラーワーク 『今日の色』『色で見る私の歴史』
2回目		(色を知る①)色がなぜ見えるか、色の成り立ち、色の三属性が分かるようになる ・カラーワーク 『色で見る私の歴史』『マイ ファミリーカラー』
3回目		(色を知る②)色相(色相環、補色、暖色、中性色、寒色)が分かるようになる ・小テスト① ・カラーワーク 『ラインドローイング』
4回目		(色を知る③)明度、彩度、三原色、混色が分かるようになる ・小テスト② ・カラーワーク 『好きな色、嫌いな色』
5回目		(色を知る④)トーンを理解し、トーンイメージを活かした配色ができるようになる ・小テスト③
6回目		(色を知る⑤)色が起こす錯覚が分かるようになる ・小テスト④ ・配色レッスン ・カラーワーク 『リレドローイング』
7回目		(色彩イメージとその心理①)色が持つイメージやその色彩心理が分かるようになる① ・小テスト⑤ ・カラーワーク『扉』
8回目		(色彩イメージとその心理②)色が持つイメージやその色彩心理が分かるようになる② ・カラーワーク 『心と心を結ぶ色のプレゼント』
9回目		(配色①)配色の基礎が分かるようになる① ・小テスト⑥ ・配色レッスン
10回目		(配色②)配色の基礎が分かるようになる② ・『マイ ファミリーカラー』を通じた色彩心理
11回目		(色を知る⑥)見えやすさと色の関係、光と色の関係が分かるようになる ・小テスト⑦ ・『好きな色・嫌いな色』から見る自己分析・色彩心理
12回目		(イメージ理論①)各スタイリングイメージを形成する色・形・素材・柄は何か分かるようになる① ・小テスト⑧
13回目		(イメージ理論②)各スタイリングイメージを形成する色・形・素材・柄は何か分かるようになる②
14回目		(前期試験)カラーベース、パーソナルカラーの色が分かるようになる ・前期試験【筆記】 ・授業ファイル提出
15回目		(トレンドカラー)トレンドの流れ、トレンドカラー成り立ち、2020秋冬のトレンドカラーが分かるようになる

評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎小テスト点数 40%      ◎課題提出 10%      ◎前期試験の点数 40%      ◎授業ファイルの内容 10%
受講生へのメッセージ	授業で習った知識をしっかり復習して覚えてください。 美意識・プロ意識を高く持ち、授業に参画して充実した学校生活を送ってください。

【使用教科書・教材・参考書】	
『シェウウエムラテキスト』、授業ファイル(リングファイル)、筆記用具、カラーカード、はさみ、のり 『ブライダルの基礎知識』→指示回★に持参	